

日本イーラーニングコンソシアム SCORM アンケート調査まとめ

2011/6/20

日本イーラーニングコンソシアム
標準化推進委員会

1. アンケートの概要

日本イーラーニングコンソシアム（eLC）では、SCORM 技術者資格の運営、eラーニングカンファレンスでのセミナー、英文企画書の翻訳などを通じて SCORM 規格の普及推進に取り組んできました。SCORM 技術者資格を SCORM 2004 対応の資格としてリニューアルしたのを機に、現在の SCORM 規格の利用状況や普及に向けての方策検討の基礎資料とするため、SCORM 規格に関するアンケートを実施しました。

2. 調査方法・回答数など

2.1 調査期間・方法

2011 年 2 月～4 月、Web によるアンケート

2.2 調査対象

eLC 会員、ニュースメール登録者、SCORM 技術者などにメールで回答を依頼。

回答者総数 73 名

3. 調査の目的と質問内容

本調査の目的は SCORM 規格の普及状況を把握し、今後の普及に向けた eLC の活動に反映することです。前回の調査では SCORM アセッサの方に対象を限定しましたが、今回は、一般の eLC 会員やニュースメール登録者している非会員の方も対象にしています。普及状況を把握し、今後の活動に資するために以下のような質問項目を設定しています。

- 回答者の SCORM 規格との関わり方（ベンダかユーザか、LMS 関係かコンテンツ関係か）
- 利用する SCORM のバージョンや機能
- 開発環境・ツール・開発コンテンツ数・種別・形式
- SCORM を使うようになったきっかけ、実際に感じている利点・欠点・満足度、技術課題の有無
- SCORM を使っていない方はその理由
- SCORM 技術者制度に対するニーズ、要望事項
- 今後の普及に向けて必要と思われる施策や要望事項

4. 調査結果の要約

今回は第一次のまとめとして、単純集計を行いました。単純集計で得られた主な結果を以下に示します。

- 今回のアンケートの回答者の方の業務は提供側から利用側まで様々です（問 1）。また、コンテンツ制作など現場の業務に携わっている方が大半ですが、経営者・管理職の方にもご回答いただき

ました（問 2）。回答者中、過半数が SCORM 関連製品の提供ないし利用者です（問 3）。

- SCORM 規格をカスタムコンテンツ制作に利用される方が多くなっています（問 4）。
- SCORM 2004 を既に利用されている方が 1/3、今後予定している人を含めると、3/4 以上が SCORM 2004 の利用者です（問 5）。
- これまでに数 100 本単位で SCORM コンテンツを開発された方もいらっしゃいます。また、既成のレディメイドコンテンツより、カスタムコンテンツの本数が多くなっています（問 8～12）。
- ひとつのコンテンツは 10～20SCO 程度、コンテンツ全体の標準学習時間は 1 時間程度が大きくなっています（問 14～15）。
- 過半数の方が複数 LMS を使用しており、10 種以上という方もいらっしゃいます（問 18）。
- SCORM を使うようになったきっかけは、「顧客要望対応」、「保有 LMS が対応していた」、「標準規格の安心感」が多くなっています（問 27～37）。
- SCORM を実際に使ったメリットでは、「顧客要望対応」、「標準規格の安心感」、「コンテンツ再利用」、「開発工程標準化」が多くなっています（問 39～47）。
- 過半数の方が、自社製品のほとんどが SCORM に対応しており（問 51）、ほかの人にも導入を勧めている（問 53）と答えています。
- SCORM 技術者を取得した理由としては、「スキル向上」、「会社の技術力アピール」、「組織の指示」が多くなっています（問 61～65）。
- SCORM 技術者を取得しない理由としては、「取得のコスト」、「資格の意味がない」、などとなっています（問 68～75）。
- 相互運用性トラブルについては、利用者の 3/4 の方が経験しています。
- SCORM 1.2 に対しては過半数の方が満足と答えています。問題として、LMS 独自仕様の存在が指摘されています（問 81～85）。
- SCORM 2004 に対しては、機能的には半数の方が満足と答えていますが、製品の品ぞろえや情報の入手の満足度が落ちています（問 86～89）。
- SCORM 技術者制度に関してはコミュニティの充実に対する希望が多くなっています（問 91～96）。また、セミナー、コミュニティでの情報交換に対する希望が多くなっています（問 98～105）。
- SCORM を使っていない方の理由としては、「技術者がいない」、「ツール・情報が不足」、「他の規格を使っている」が多くなっています（問 124～133）。
- SCORM を使っていない方も、「コンテンツの再利用性」、「利用可能な LMS の増加」、「開発工程の標準化」などの SCORM の利点は認識されています（問 135～140）。

今後、さらに分析を行う予定です。また、いただいたコメントなどに関しては、eLC の標準化推進活動に反映していくことを検討していきます。

5. 回答内容

問 1 あなたの所属組織の最も主要な業務として、あてはまるものをひとつ選んで下さい。

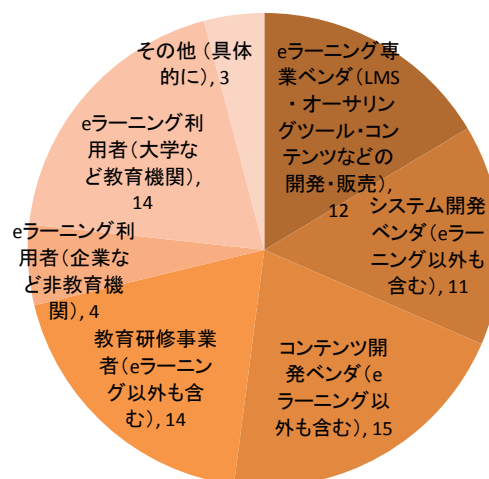
今回のアンケートには、各種の業務の立場の方がまんべんなく回答していただいています。

・その他

IT コンサルタント

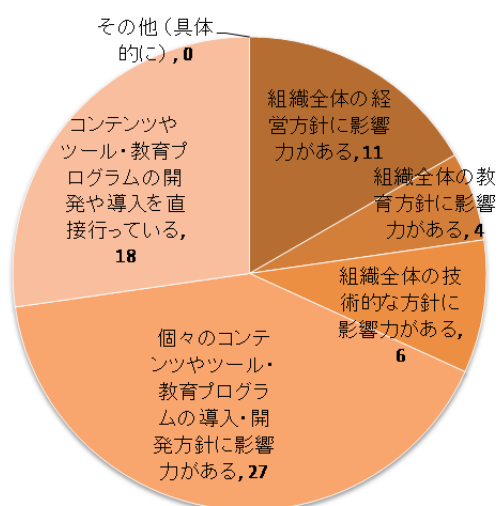
公立高校（工業系）

元 e ラーニング専門ベンダ



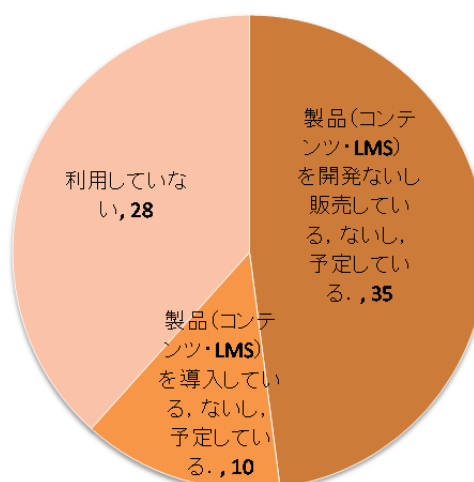
問 2 あなたの所属組織における役割について、あてはまるものをひとつ選んでください。

現場の業務に関係している方が大半ですが、経営者・管理者の方にもお答えいただいています。



問 3 あなたの所属組織では SCORM 規格を利用していますか？

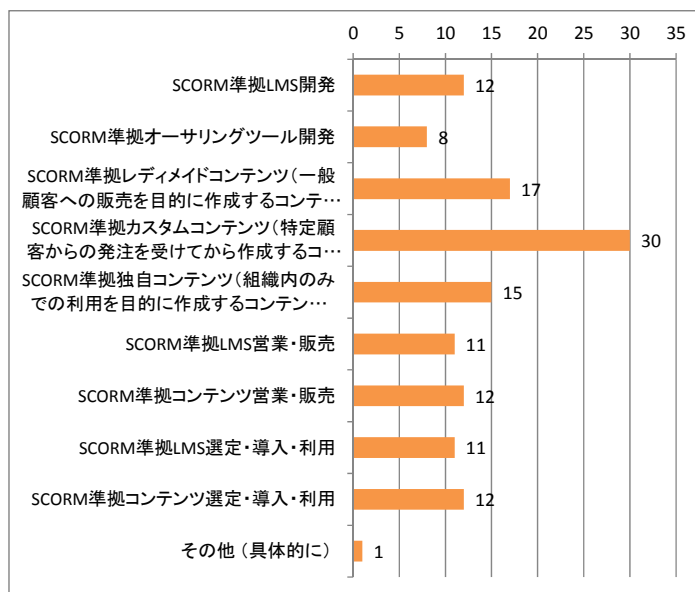
今回の回答者は、過半数が SCORM 規格の利用者です。



ここからは SCORM 規格利用者の方（45 名）の回答です。

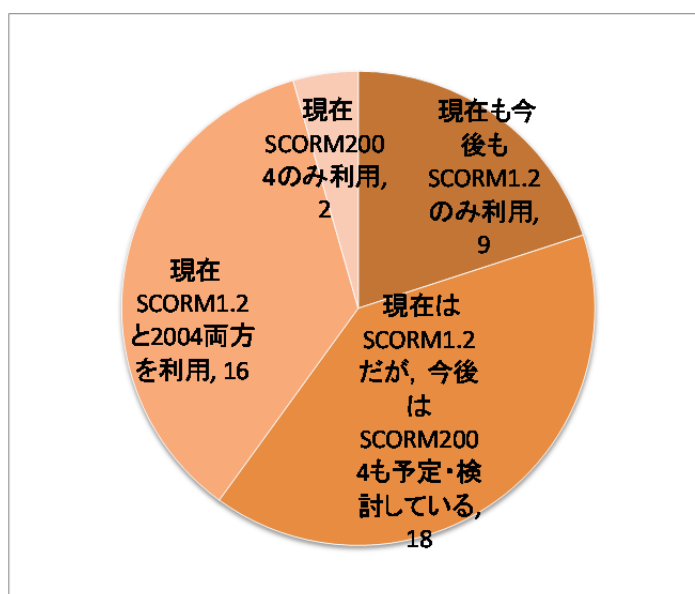
問 4 あなたの業務における SCORM 規格との関係として、あてはまるものをすべて選んで下さい。

カスタムコンテンツ制作を選択された方が 2/3 となっています。



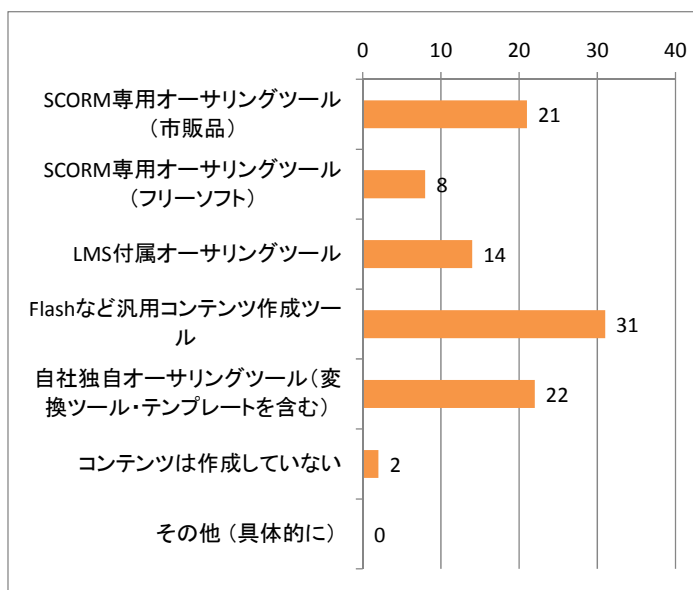
問 5 あなたの所属組織の利用対象の SCORM 規格のバージョンについて、ひとつだけ選んでください。

SCORM 2004 の利用者は約 1/3、今後予定している人を含めると 3/4 以上が SCORM 2004 の利用者です。



問6 あなた自身ないし所属組織が使用しているコンテンツ作成ツールについて、あてはまるものすべて選んで下さい。

市販の専用ツールや Flash などの汎用ツールを使う方が多いようです。

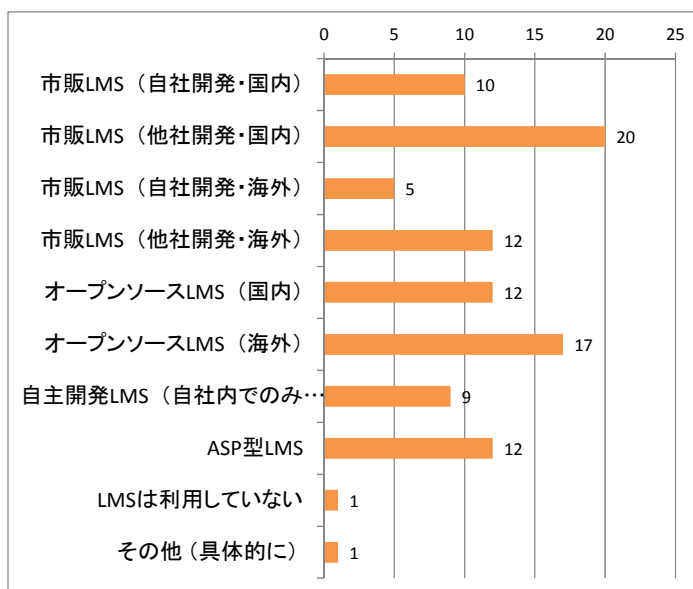


問7 あなた自身ないし所属組織が使用している LMS について、あてはまるものすべて選んで下さい。

市販 LMS の割合が高いですが、オープンソースも活用されています。また、ASP 型も多くなっています。

・その他

自社開発 LMS で、顧客へ教育サービスを提供

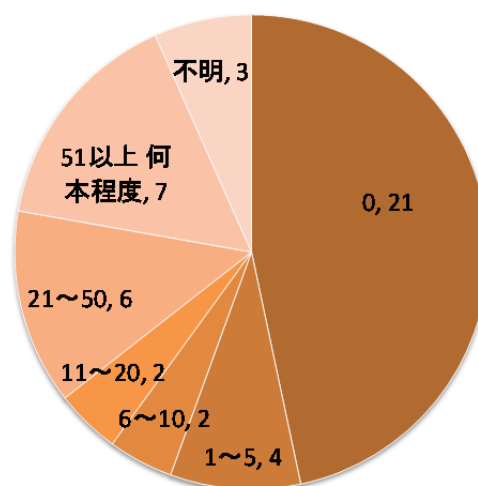


問 8 あなた自身がこれまでに作成に関与したレディメイド SCORM コンテンツ（一般顧客への販売を目的に作成するコンテンツ）の本数を選んでください。

まったく作っていない人と、20 本以上作っている人に、大きく分かれています。

・ 51 以上

100×2, 300, 400×2, 記入無し×2

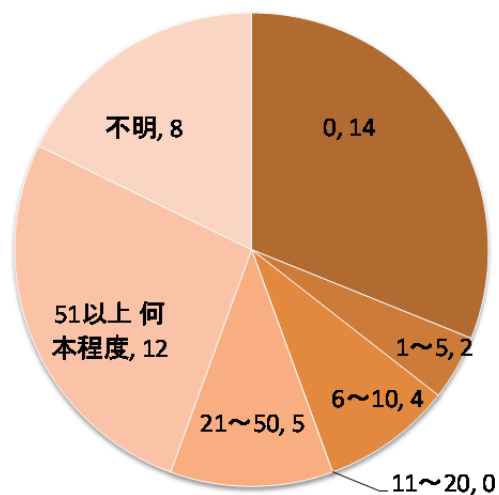


問 9 あなたの所属組織がこれまでに作成したレディメイド SCORM コンテンツ（一般顧客への販売を目的に作成するコンテンツ）の本数を選んでください。

やはり、まったく作っていない組織と、20 本以上作っている組織に、大きく分かれています。

・ 51 以上

100×2, 150, 300×2, 400×2, 記入無し×5

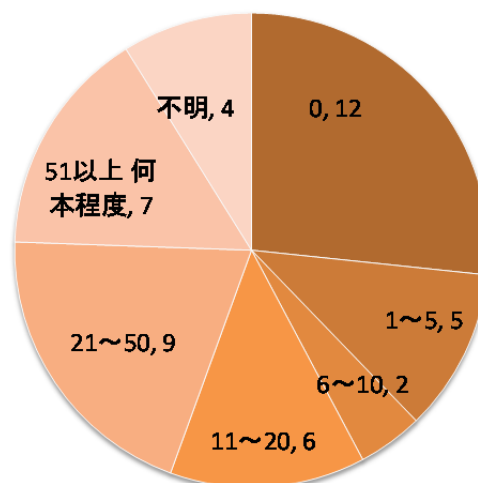


問 10 あなた自身がこれまでに作成に関与したカスタム SCORM コンテンツ（特定顧客からの発注を受けてから作成するコンテンツ）の本数を選んでください。

レディメイドコンテンツよりも、作成している人が多くなっています。

・ 51 以上

80, 100, 200, 年間 100 以上, 記入無し×3

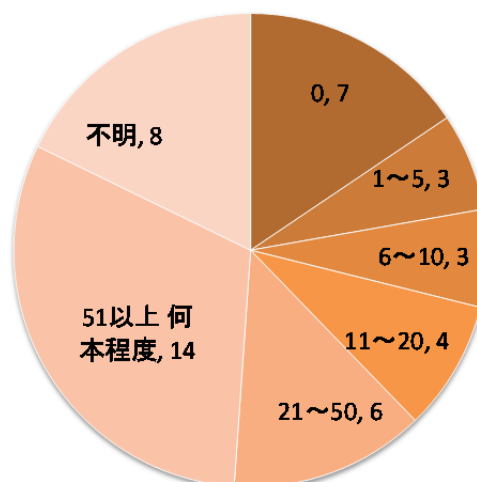


問 11 あなたの所属組織がこれまでに作成したカスタム SCORM コンテンツ（特定顧客からの発注を受けてから作成するコンテンツ）の本数を選んでください。

同様にレディメードコンテンツよりも、作成している組織が多くなっています。

・ 51 以上

80, 200×2, 400, 500, 1000×2, 年間
100 以上, 記入無し×6

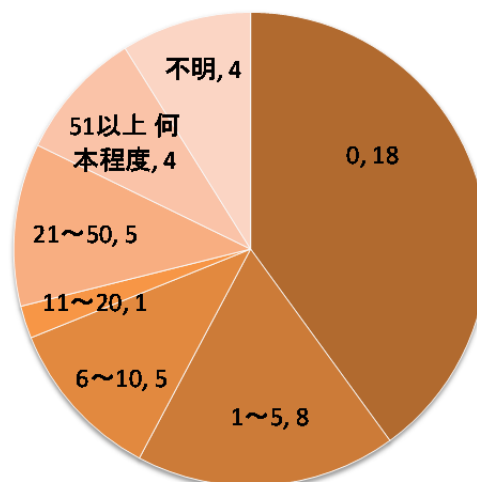


問 12 あなた自身がこれまでに作成に関与した独自 SCORM コンテンツ（組織内のみでの利用を目的に作成するコンテンツ）の本数を選んでください。

組織内のみでの利用を目的とするコンテンツにも SCORM が利用されています。

・ 51 以上

80, 記入無し×3

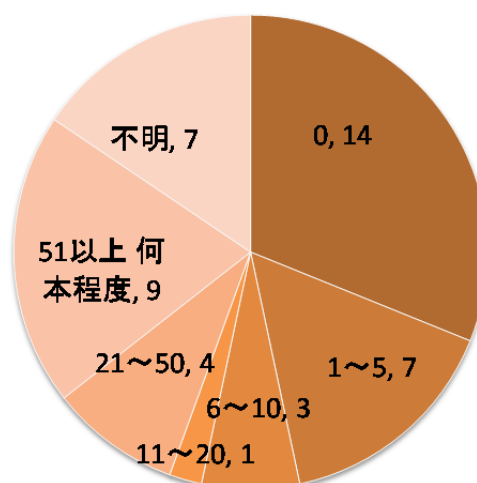


問 13 あなたの所属組織がこれまでに作成した独自 SCORM コンテンツ（組織内のみでの利用を目的に作成するコンテンツ）の本数を選んでください。

組織内のみでの利用を目的とするコンテンツにも SCORM が利用されています。

・ 51 以上

80, 200×2, 300, 記入無し×5

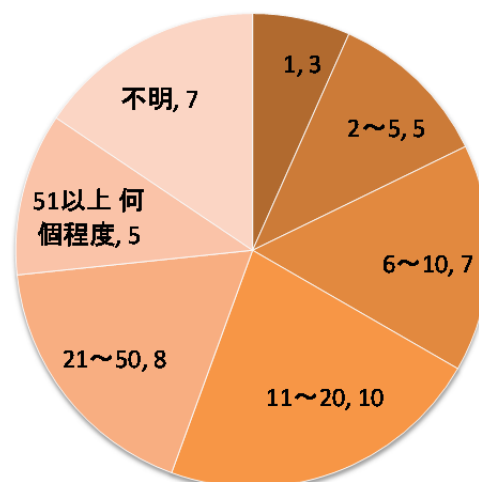


問 14 作成しているコンテンツの標準的な
SCO 数を選んで下さい。

10~20 SCO 程度のコンテンツが一般的なよう
です。

・ 51 以上

100×2, 記入無し×3

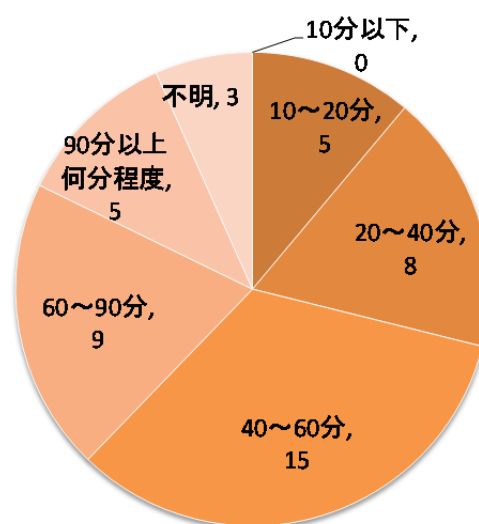


問 15 作成しているコンテンツの標準的な学
習時間数を選んで下さい。

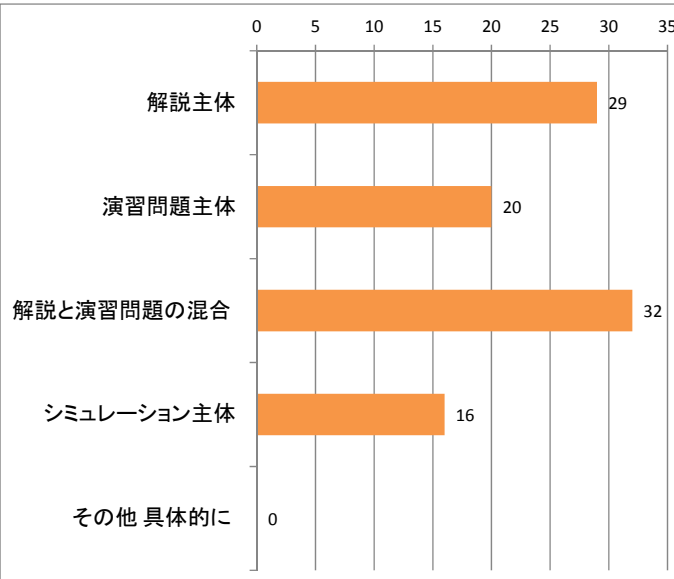
1 時間程度のコンテンツが一般的なよう
です。

・ 90 分以上

240 分, 記入無し×4



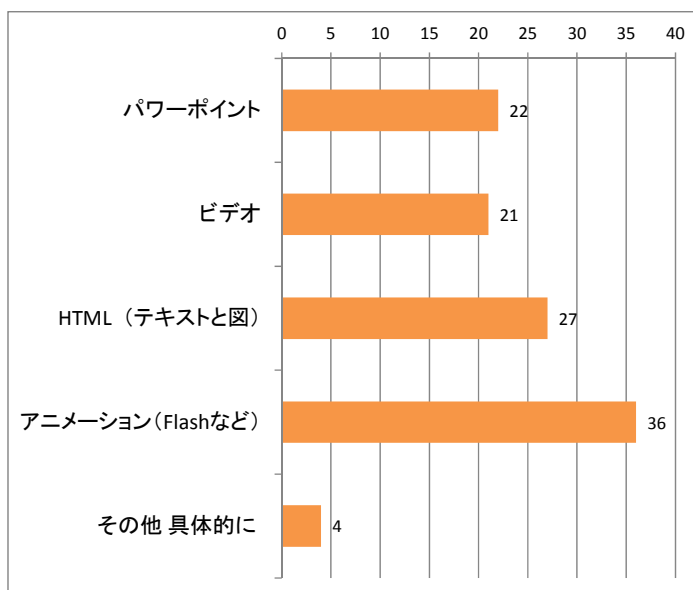
問 16 作成しているコンテンツの形式を選ん
で下さい（複数選択可）。



問 17 作成しているコンテンツで標準的に使用する媒体を選んで下さい（複数選択可）。

・その他

Quiz Creator, 記入無し×3

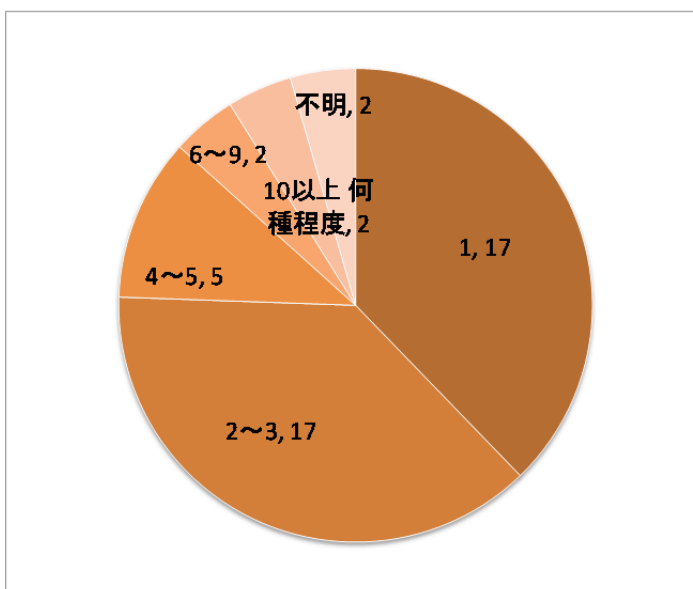


問 18 作成したコンテンツを稼働させている LMS の種別数を選んで下さい。

過半数の方が複数種類の LMS を使用しています。

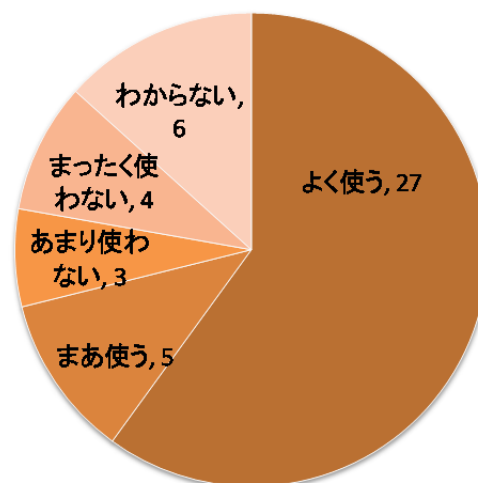
・10 以上

記入無し×2



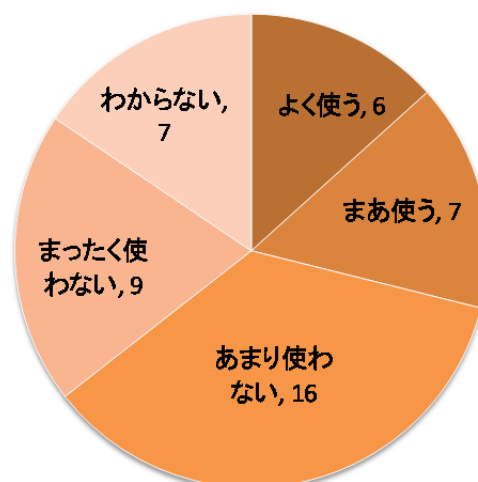
ここからは SCORM 各種機能の利用状況に関する回答です.

問 19 RTE 必須機能 (SCORM 1.2)



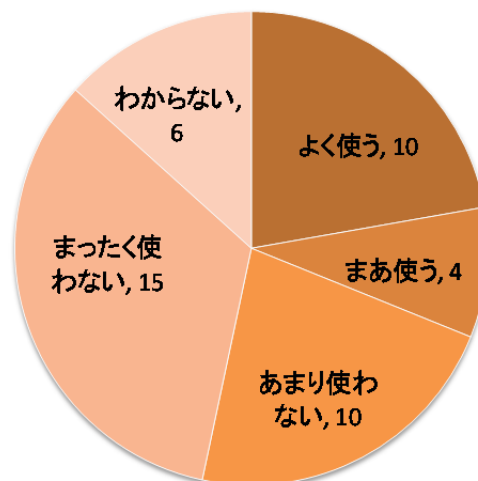
問 20 RTE オプション機能 (SCORM 1.2)

必須機能に比べて利用頻度は落ちています.

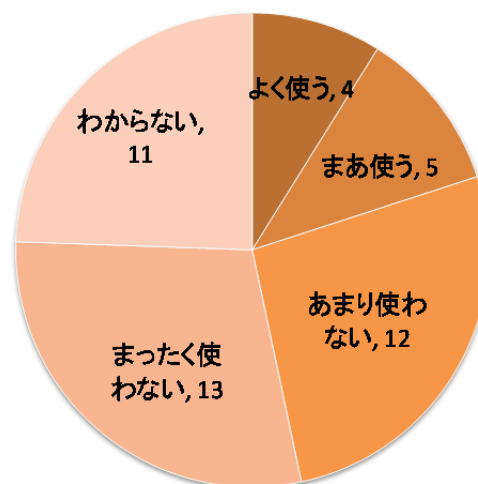


問 21 RTE 機能 (SCORM 2004)

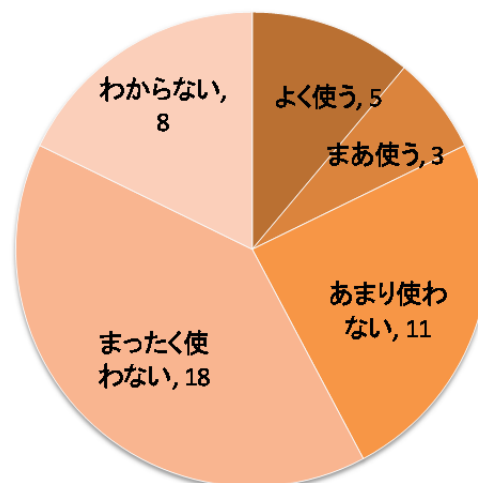
SCORM 2004 利用者とそうでない方に分かります.



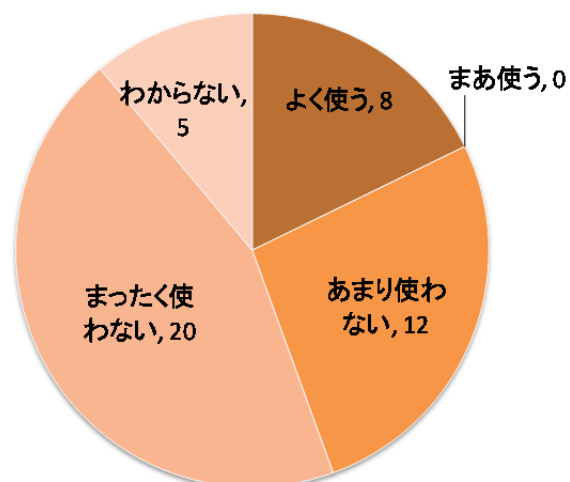
問 22 前提条件機能 (SCORM 1.2)



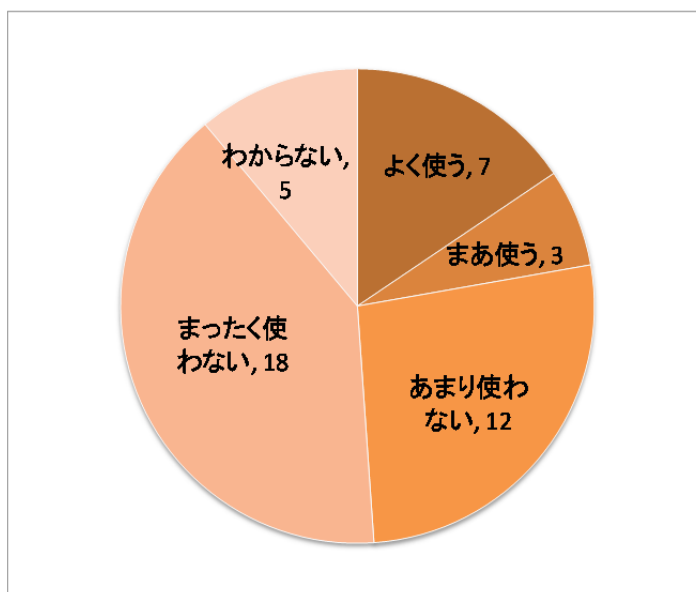
問 23 LOM 機能 (SCORM 1.2/SCORM 2004)



問 24 シーケンシング機能 (SCORM 2004)



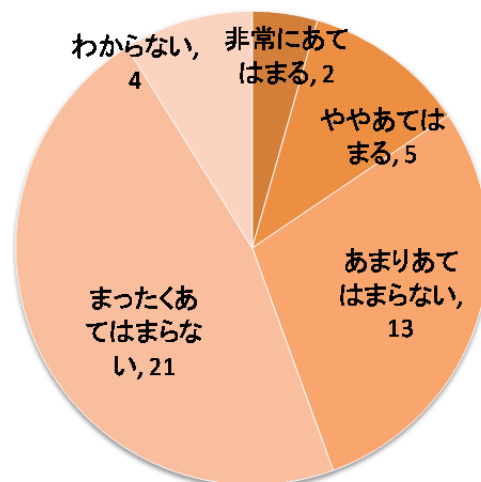
問 25 シーケンシング機能（SCORM 2004）



ここからは SCORM 技術を使うきっかけとなった理由・目的・想定された利点についての回答です.

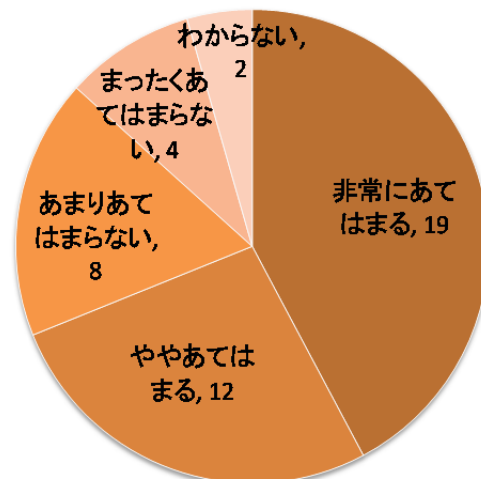
問 27 ベンダに勧められた

ベンダに勧められたことがきっかけとなっている方は少数です.



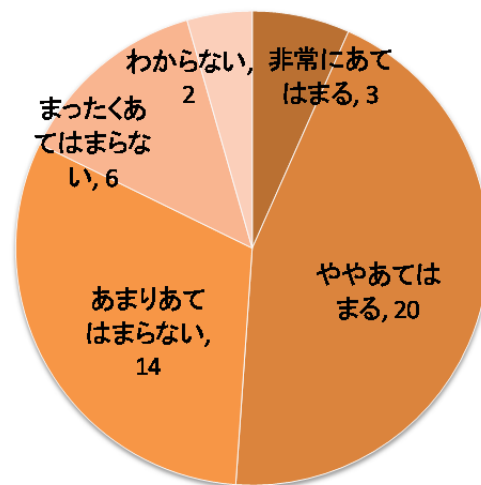
問 28 使用する LMS が SCORM に対応していた

LMS が SCORM に対応していたことがきっかけという方が過半数です.



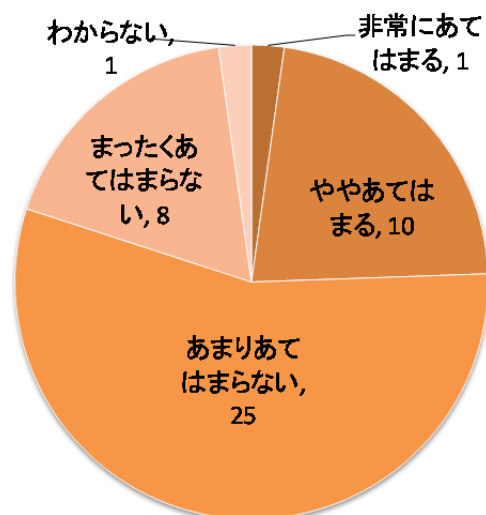
問 29 SCORM 対応製品が多い

SCORM 対応製品の多さを挙げている方が約半数です.



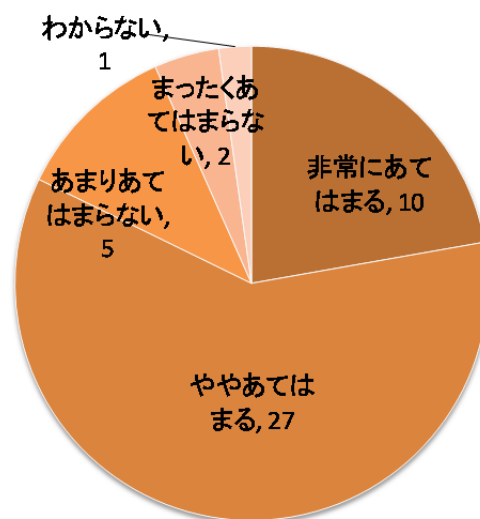
問 30 SCORM 関連情報が豊富

関連情報の多さを挙げている方は少数です。



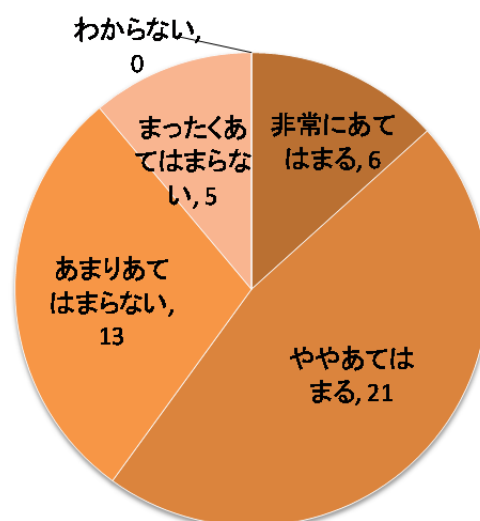
問 31 標準規格なので安心

多くの方が標準規格なので安心と答えています。



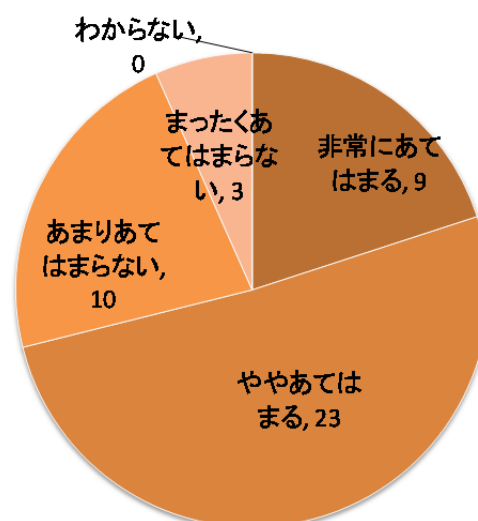
問 32 コンテンツ開発の効率化が可能

過半数の方がコンテンツ開発効率化を挙げています。



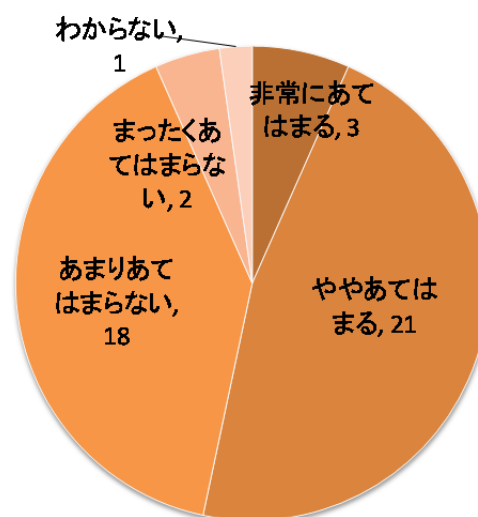
問 33 コンテンツの再利用が可能

過半数の方がコンテンツ再利用を挙げています。



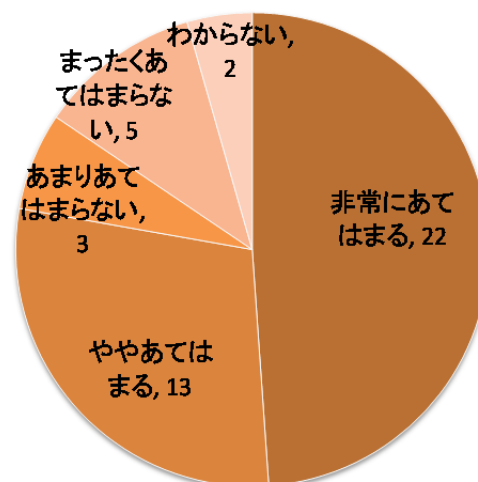
問 34 開発工程やツールの標準化が可能

ほぼ半数の方が開発工程の標準化を挙げています。



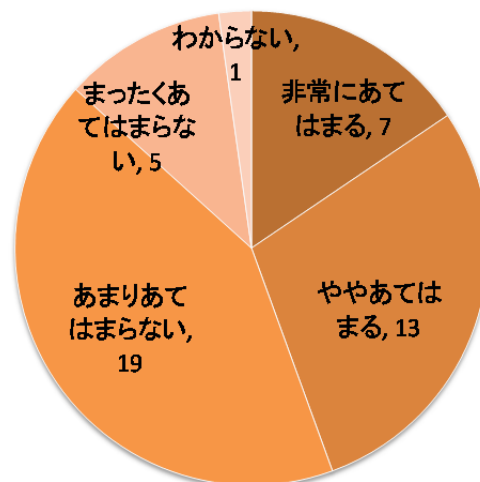
問 35 顧客要望への対応

3/4 以上の方が顧客要望への対応を挙げています。



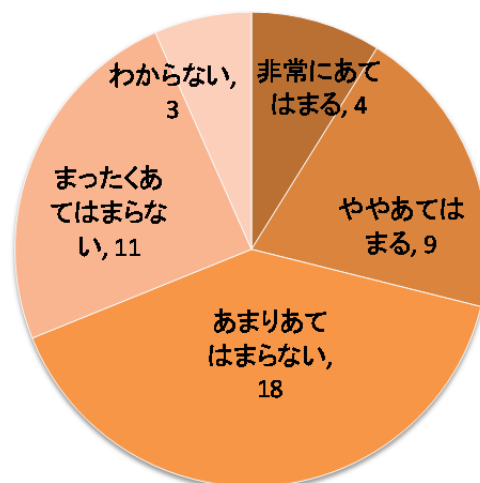
問 36 自社で扱える LMS やコンテンツ種別の増加が可能

LMS やコンテンツ種別の増加を挙げた方は半数以下です。



問 37 コンテンツ開発外注先の選択肢増加が可能

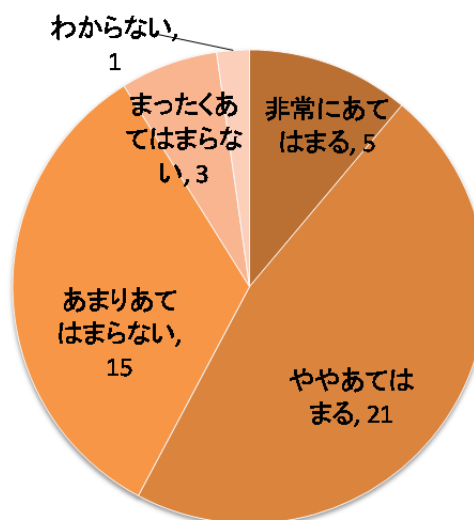
コンテンツ開発外注先の選択肢増加を挙げた方は少数です。



ここからは SCORM 技術の実際のメリットについての回答です。

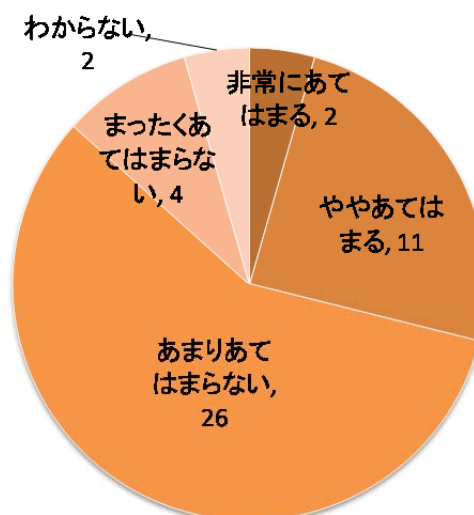
問 39 SCORM 対応製品が多い

過半数の方が SCORM 対応製品の多さを挙げています。



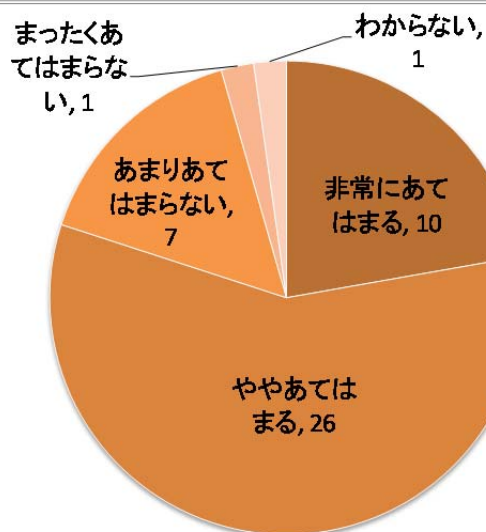
問 40 SCORM 関連情報が豊富

SCORM 関連情報の豊富さを挙げた方は少数です。



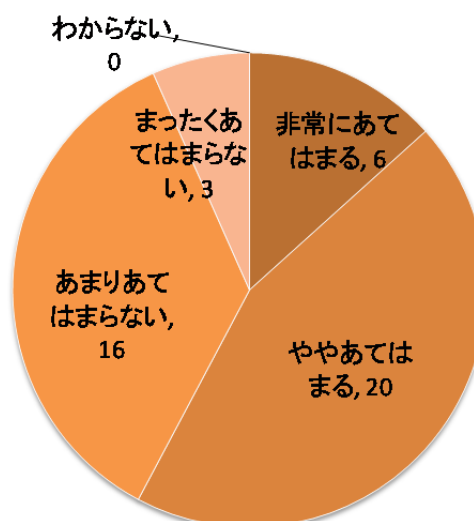
問 41 標準規格なので安心

3/4 の方が標準規格なので安心としています。



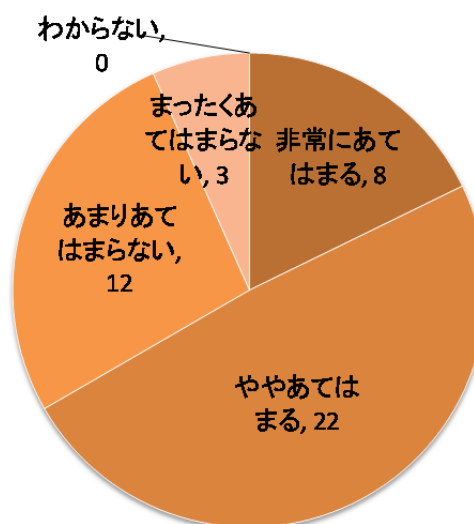
問 42 コンテンツ開発の効率化が可能

過半数の方がコンテンツ開発効率化を挙げています。



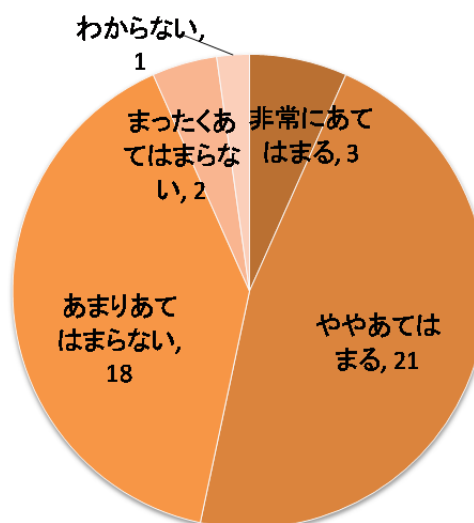
問 43 コンテンツの再利用が可能

過半数の方がコンテンツ再利用を挙げています。



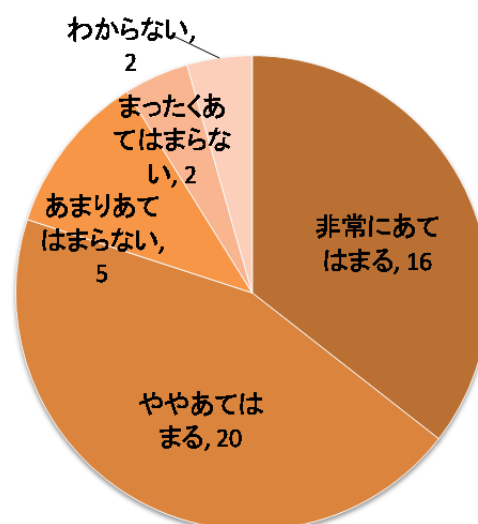
問 44 開発工程やツールの標準化が可能

約半数の方が開発工程やツールの標準化を挙げています。



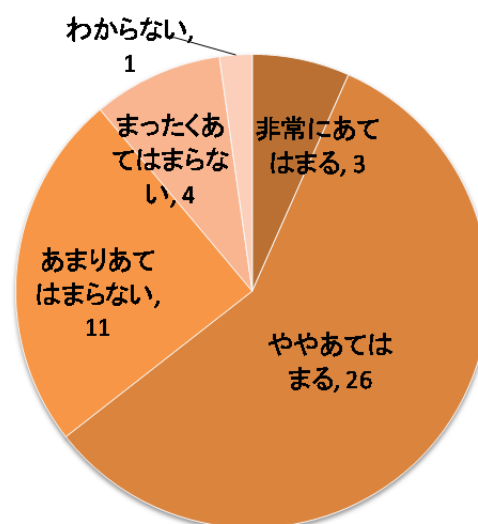
問 45 顧客要望への対応

3/4 以上の方が顧客要望への対応を挙げています。



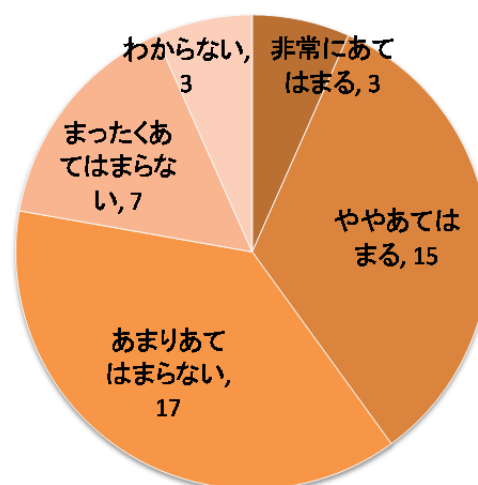
問 46 自社で扱える LMS やコンテンツ種別の増加が可能

過半数の方が，LMS やコンテンツ種別の増加を挙げています。



問 47 コンテンツ開発外注先の選択肢増加が可能

コンテンツ開発外注先の選択肢増加を挙げた方は 1/3 です。



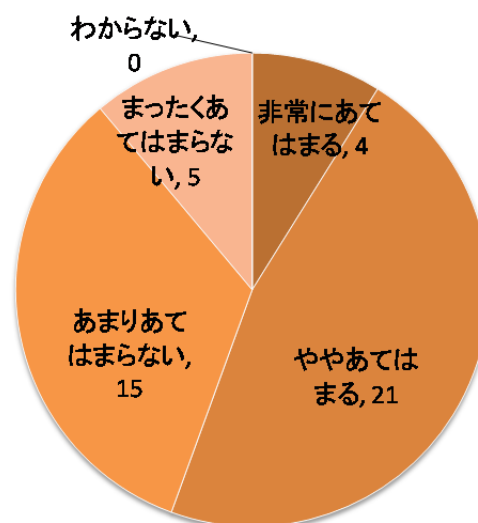
問49 想定したメリットと実際のメリットに差がある場合、その理由を記述してください。

- 後から複数の LMS を利用するようになったとき、SCORM 準拠コンテンツの持つインターオペラビリティが発揮されました
- もっと各メーカーの LMS が SCORM 対応のコンテンツ整備を進めていれば SCORM 移植のコスト低減（案件が楽）にできるのに実際は難しい
- 利用する LMS によって対応する機能が異なるため、最後はコンテンツのポータリング作業が必要となる場合が多い

ここからは SCORM 規格の認知度・ニーズ・普及状況についての回答です.

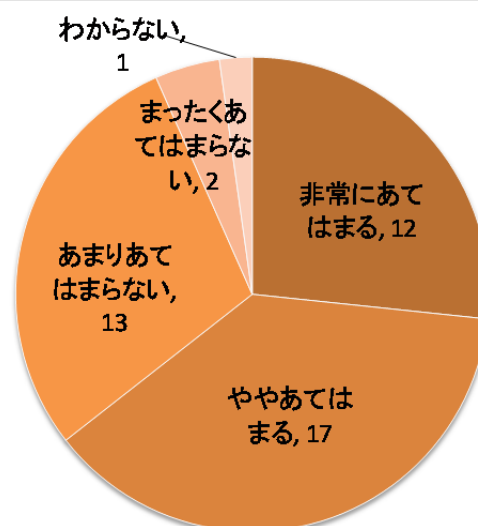
問 50 SCORM の存在が社内や顧客に広く認知されている

約半数の方が, SCORM の存在が広く認知されている, と答えています.



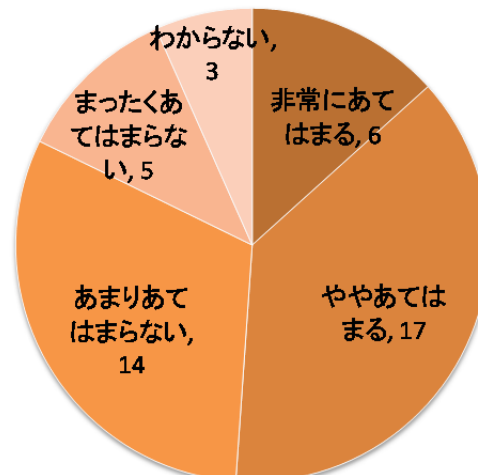
問 51 自社 e ラーニング製品・自社利用コンテンツのほとんどが SCORM に対応している

過半数の方が, 自社 e ラーニング製品のほとんどが SCORM に対応している, と答えています.



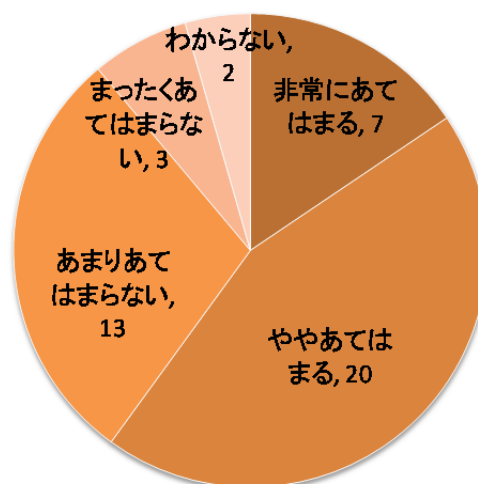
問 52 自社 e ラーニング製品・自社利用コンテンツが SCORM に対応していることを積極的にアピールしている

約半数の方が, SCORM 対応をアピールしています.



問 53 e ラーニングコンテンツやシステム導入を検討している顧客・社内利用者には SCORM 規格の採用を勧めている

過半数の方が、SCORM 対応を推奨しています。

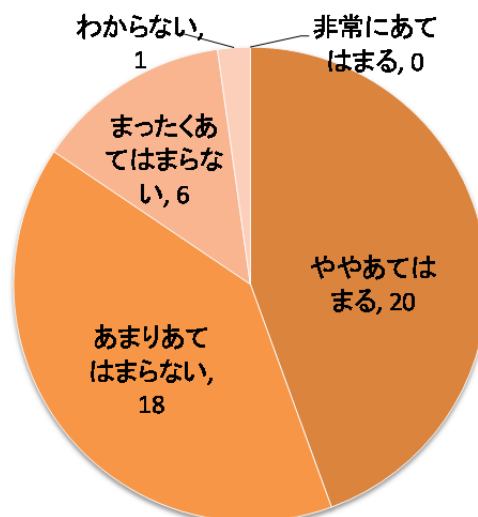


問 54 その他 具体的に

- 学校・教育機関では SCORM が必須とされるが、企業（特に中小）では必要性を見いだせない。
- 育成担当者であっても SCORM を知っていることは非常に少ない。

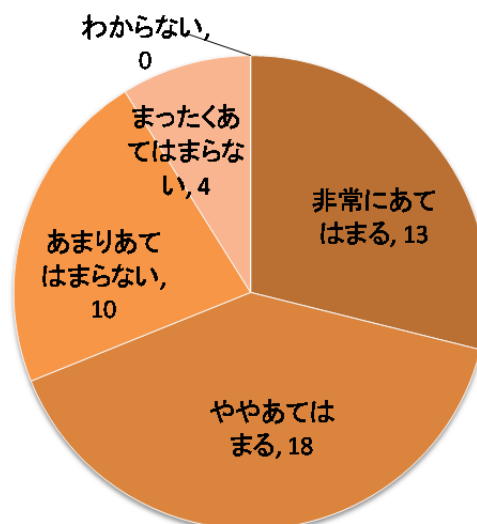
問 55 SCORM 技術者の存在が社内や顧客に 広く認知されている

SCORM 技術者の存在の認知は半数以下です。



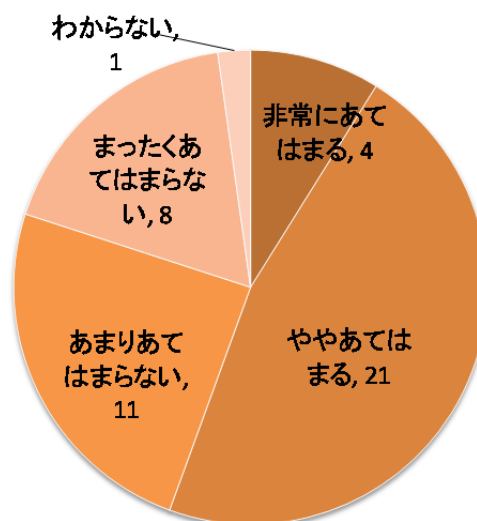
問 56 自社の社員に SCORM 技術者がいる、
あるいは、資格取得を奨励している

過半数の方が、SCORM 技術者の取得を奨励しています。



問 57 自社の社員に SCORM 技術者がいることをアピールしている

約半数の方が、SCORM 技術者の存在をアピールしています。

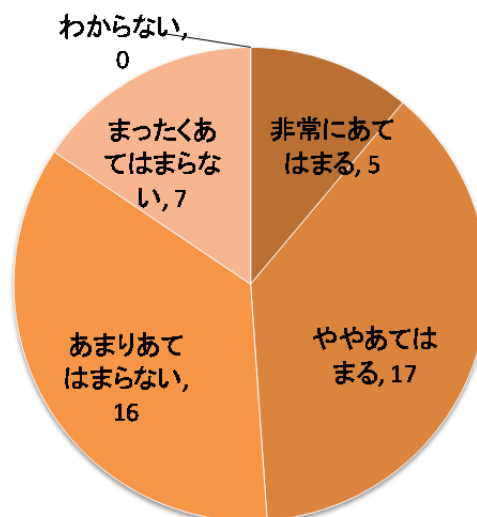


問 58 SCORM 技術者資格が業務で役立っている

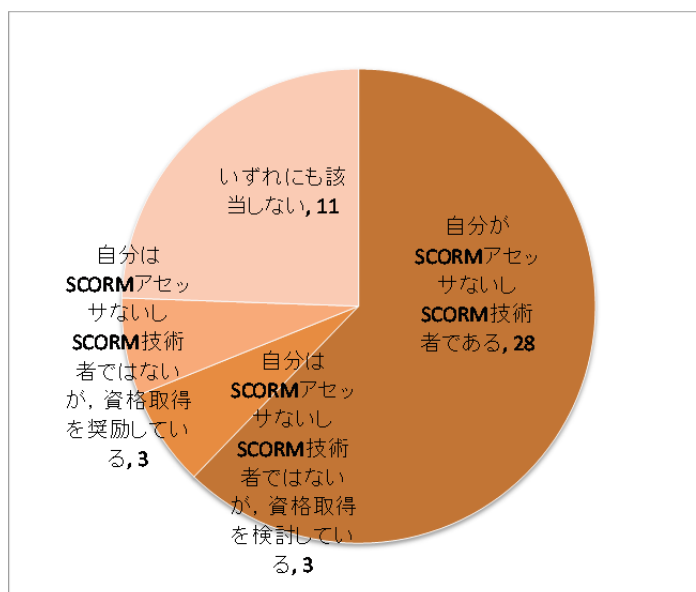
約半数の方が、SCORM 技術者資格が役立っているとしています。

問 59 その他 具体的に

- 最近では案件時に技術者資格保有の指定や要件が少なくなっている



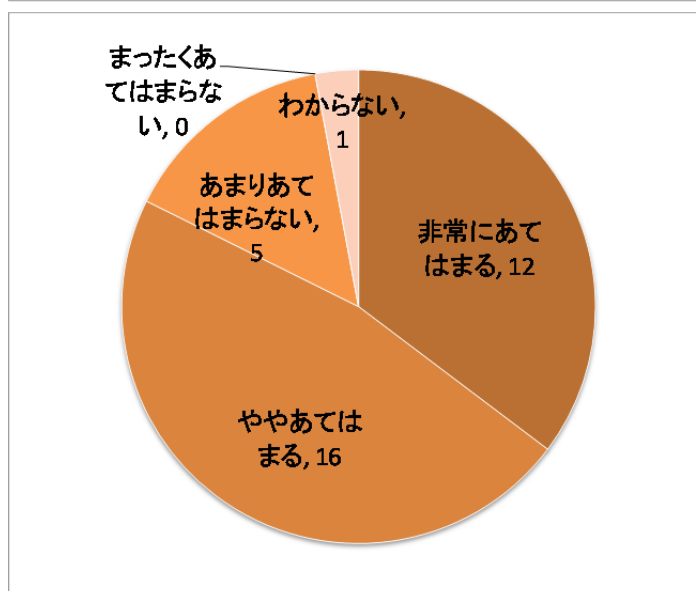
問 60 あなたは SCORM アセッサないし SCORM 技術者ですか。あるいは、組織内で SCORM 資格取得を奨励していますか？



ここからは、SCORM アセッサ・SCORM 技術者を保有している方、あるいは、資格取得を検討・奨励している方（34 名）の、その理由に関する回答です。

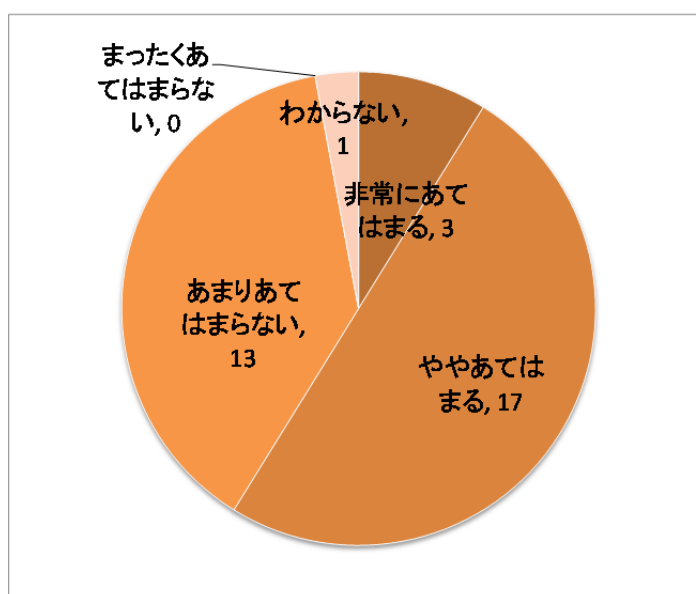
問 61 自分ないし組織のスキル向上

3/4 以上の方がスキル向上を理由に挙げています。



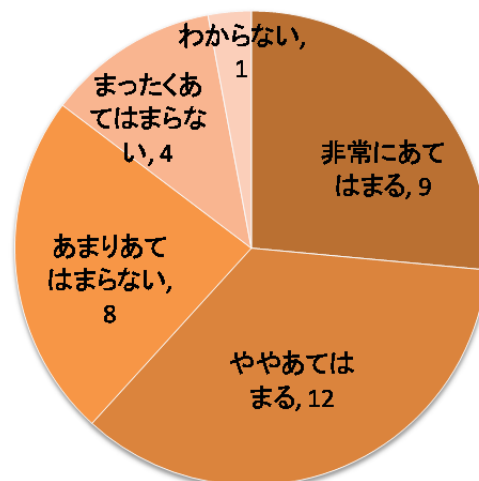
問 62 コンテンツ開発の効率化

過半数の方がコンテンツ開発効率化を理由に挙げています。



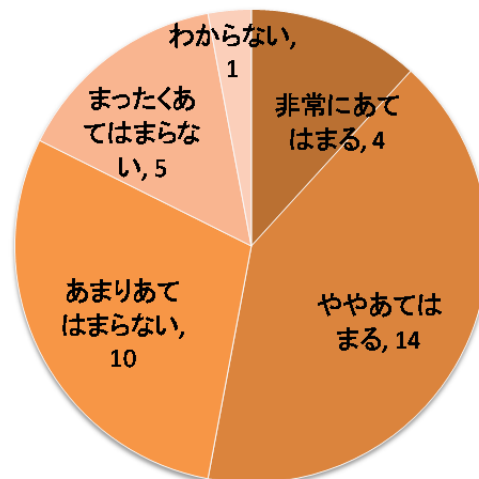
問 63 会社・所属組織の指示

過半数の方が組織の指示を理由に挙げています。



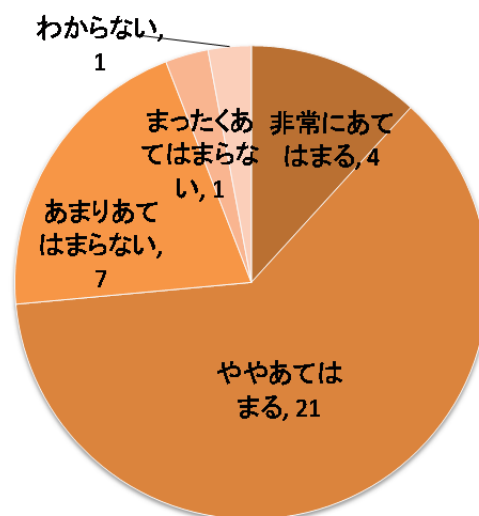
問 64 顧客の要望

約半数の方が顧客の要望を理由に挙げています。



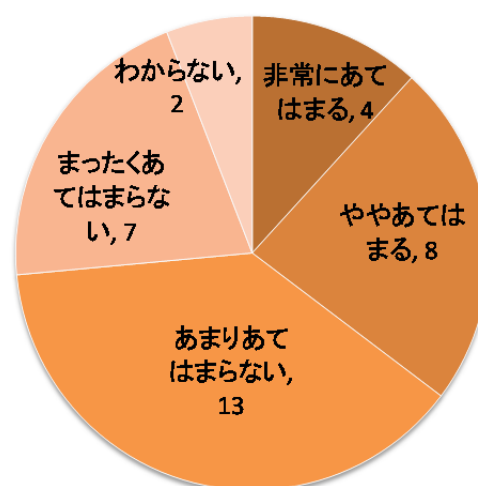
問 64 会社の技術力アピール

3/4 程度の方が技術力アピールを理由に挙げています。



問 65 入札条件への適合

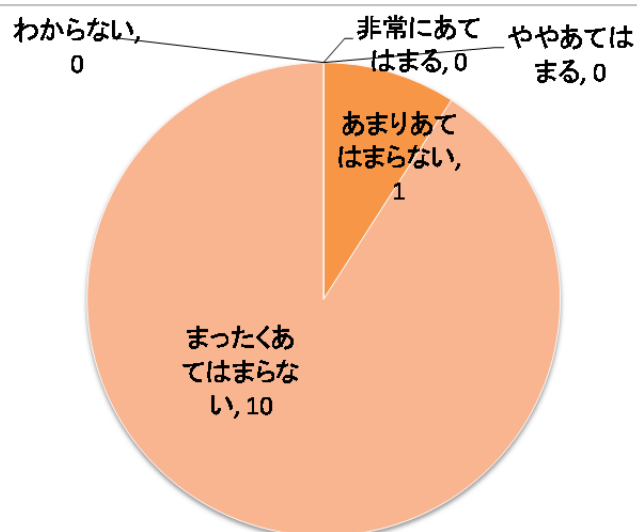
入札条件適合を挙げている方は 1/3 程度です.



ここからは、SCORM を使っているが SCORM アセッサ・SCORM 技術者を保有していない方、資格取得を推奨していない方（11 名）の、その理由に関する回答です。

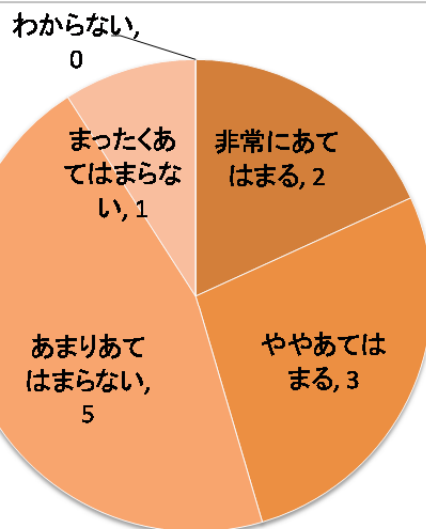
問 68 存在を知らない

資格者制度を知らない方はいませんでした。



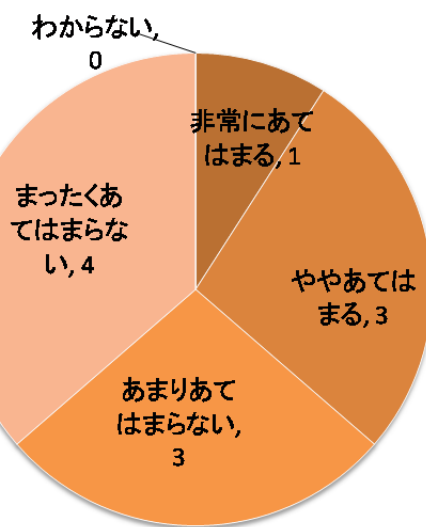
問 69 取得する意味がない

資格の意味がないと答えている方とそうでない方が半々です。



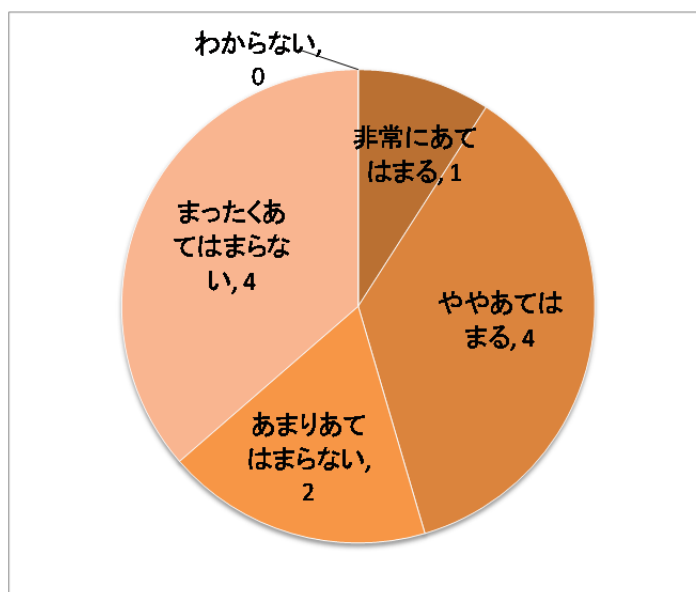
問 70 資格の中身がよくわからない

資格の中身がわからないと答えている方は約 1/3 です。



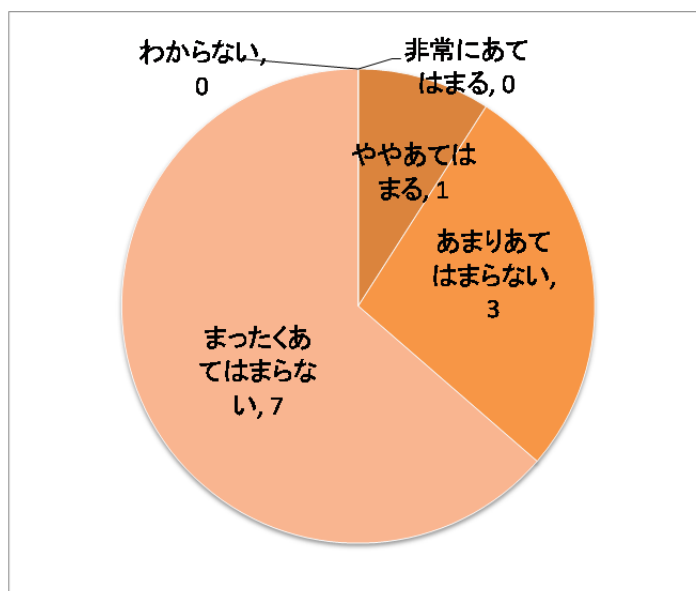
問 71 資格が何に役立つのかよくわからない

資格が何に役に立つかわからないという方とそうでないと答えている方がほぼ半々です。



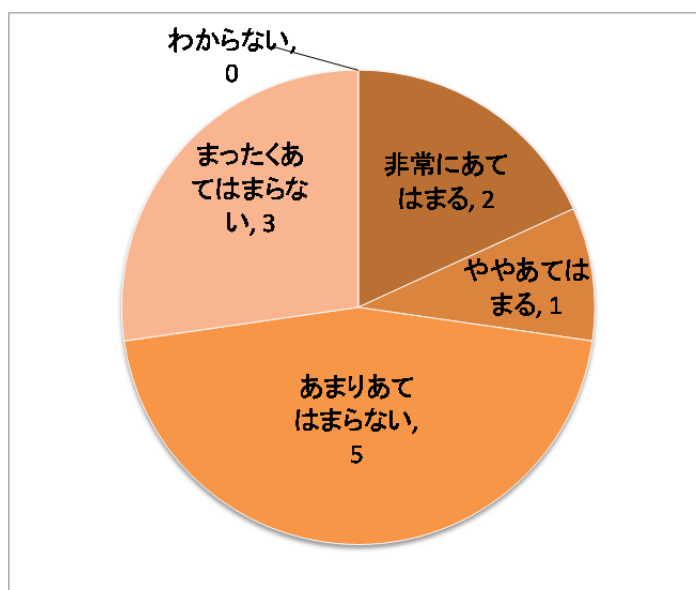
問 72 所属組織から許可されない

所属組織からの制約を挙げている方はほとんどいません。



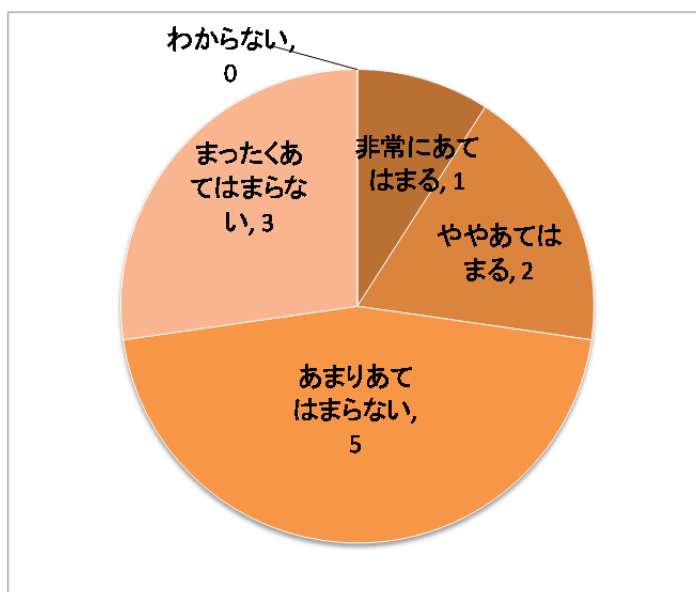
問 73 取得するためのスキルが不足している

スキル不足を挙げている方は、約 1/4 です。



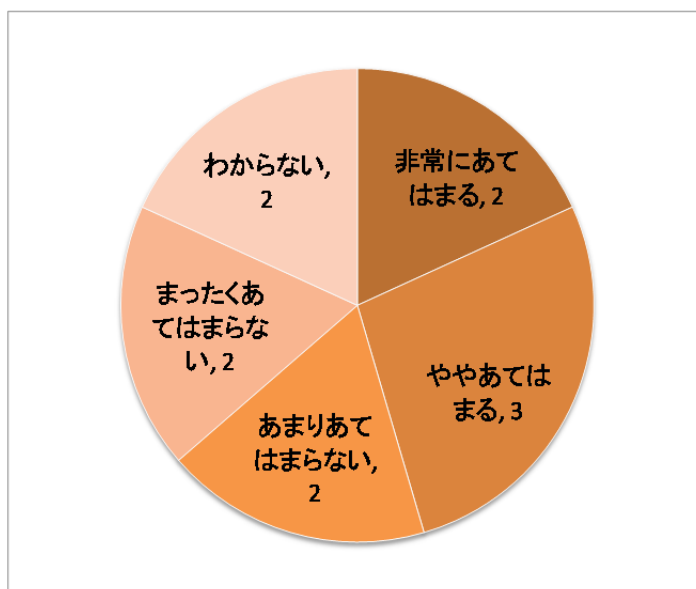
問 74 取得するための勉強方法がわからない

勉強方法不明を挙げている方は、約 1/4 です。



問 75 取得するためのコストが高い

約半数の方がコストの問題を挙げています。



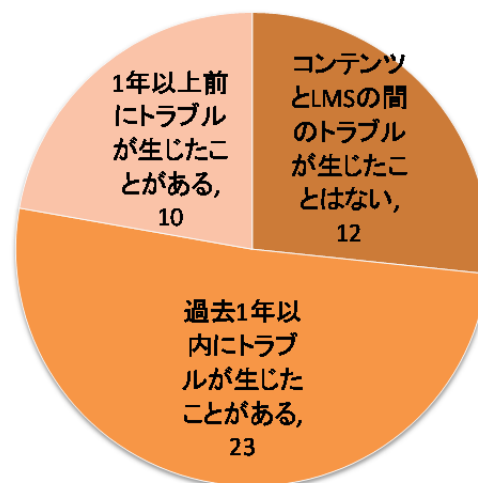
問 76 その他具体的に

- 将来オープンソースが大半を占める。
- SCORM については ADL と直接コンタクトして標準化を推進しています

ここからは再び SCORM 規格利用者の方（45 名）の回答です。

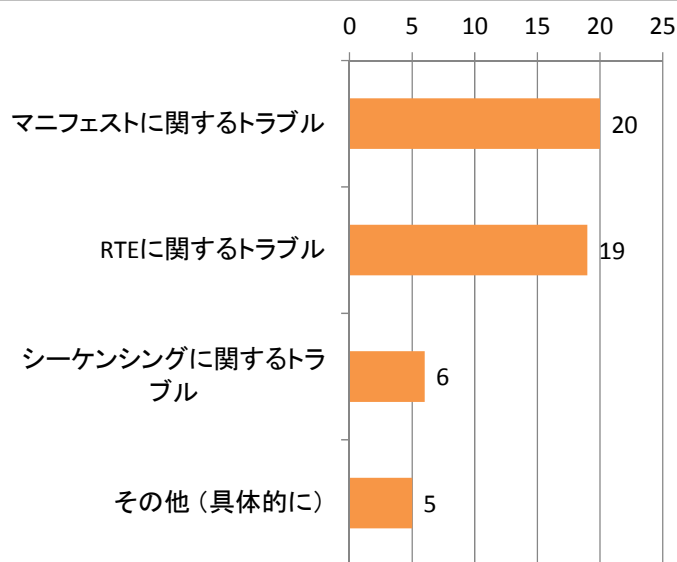
問 77 SCORM の相互運用性のトラブルについて、あてはまるものをひとつ選んで下さい。

約 3/4 の方がなんらかのトラブルを経験しており、約半数の方が 1 年以内と答えています。

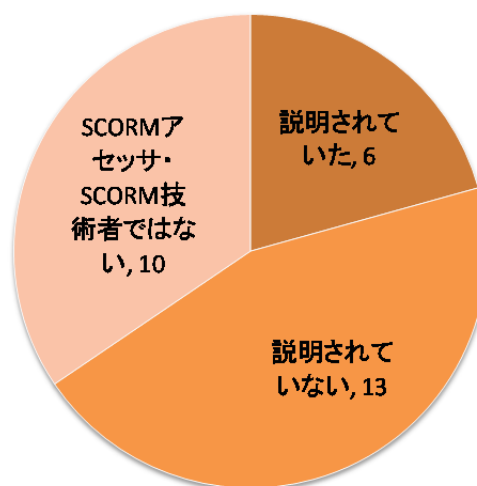


問 78 上記で生じたトラブルについて、あてはまるものをすべて選んで下さい。

マニフェスト・RTE に関わるものがほぼ同数です。



問 79 上記で生じたトラブルは SCORM アセッサ講習会・SCORM 技術者講習会で説明されましたか？



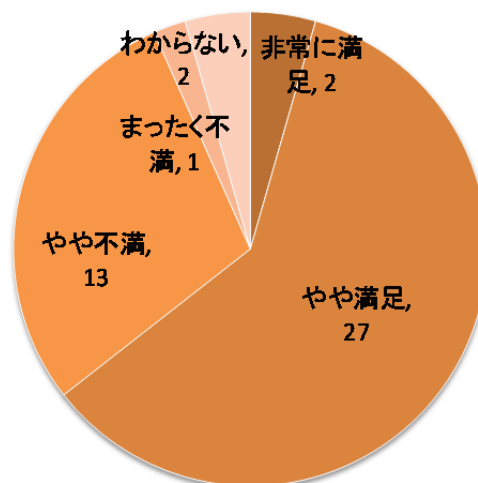
問 80 上記で生じたトラブルの内容と解決方法を具体的に書いてください。

- テストに合格したのに学習履歴ステータスが変化しなかったと報告があった。現在調査中。
- いずれも LMS の独自仕様による問題で、SCORM 規格の解釈の問題かと。
 - マニフェスト 拡張機能を持たせたため
 - RTE オプション扱いのものが LMS によって実装されていない。または実装済みでもログ抽出や表示などが実装されていない
- LMSCommit/LMSFinish の発行タイミングが明記されていないため、LMS によって動作しなかったり、例外的な操作を想定していないため決められた操作手順をする必要があった。
- お客様が作成した SCORM 対応コンテンツにおいて、imsmanifest 内で、masteryscore=0 の記載があった。このコンテンツを LMS (Saba) にアップし実行すると、学習ステータスが、どうやっても完了とならない事象が発生した。eLC から出されているトラブル解決事例を参考に、masteryscore=0 の記載を削除し、LMS (Saba) で動作確認したところ、学習ステータスが正常に完了と表示されるようになった。
- 顧客・弊社で検証 コンテンツを修正
- SCO の途中途中でで行っていたコミット関数のキックを、SCO のアンロード時に 1 回だけ行うようにコンテンツを修正した。
- 同一のコンテンツが LMS によって正常に動作したり、しなかったりする。SCORM Adopter を改変することで、LMS 間の差異を吸収した。
- 現在調査中

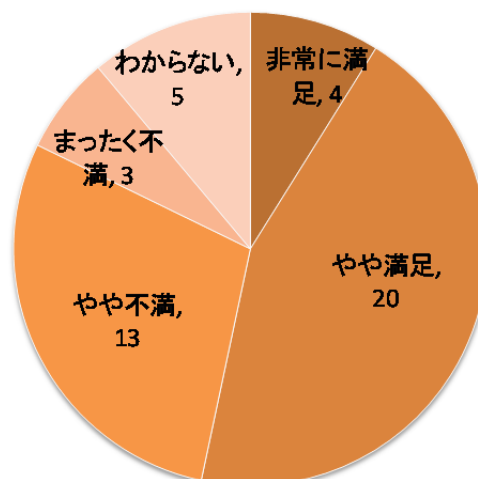
ここからは SCORM 1.2 の機能や環境の満足度についての回答結果です。

問 81 規格の仕様・機能

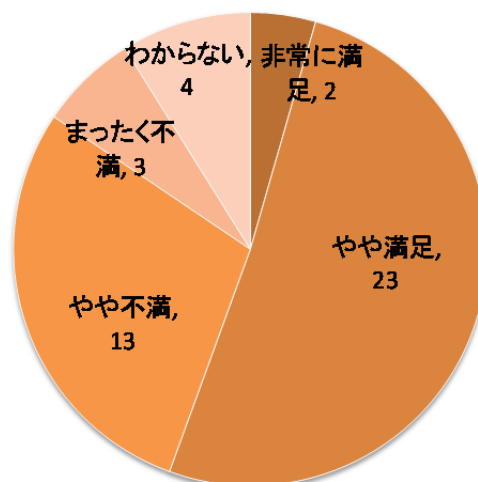
いずれについても、過半数の方が肯定的に回答しています。



問 82 LMS やオーサリングツールの機能・品揃



問 83 必要な情報の入手



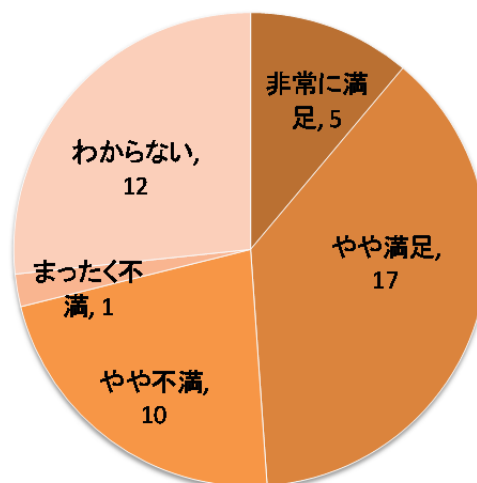
問 85 上記で「不満、やや不満」の場合、内容を具体的に書いてください。

- 現状の SCORM2004 は使えない。
- SCORM 規格と直接関係ありませんが、対応オーサリングソフトで Powerpoint のアニメーションが変換されないパターンがあること。
- LMS 側の解釈の仕方が特殊なものがあるため、LMS ベンダでないと仕様がわからない
- 規格が分かりにくい。また、SCORM 対応の LMS やツールも充実しているとは言い難い。
- LMS 独自の仕様が多すぎ、LMS ごとに SCORM の実装を変更を必要とする場合が多く、標準規格として疑問が残る。
- 所詮コンテンツであり解説やテストに限定され、他の学習アクティビティとの親和性がない。トータルで学習コースをデザインする際、SCORM はかえって足かせになる。とはいえ LMS 上の管理単位がコースで、それを SCORM パッケージと対応づけるところに課題があり、SCORM の仕様自体の問題とは違うと考えている。

ここからは SCORM 2004 の機能や環境の満足度についての回答結果です。

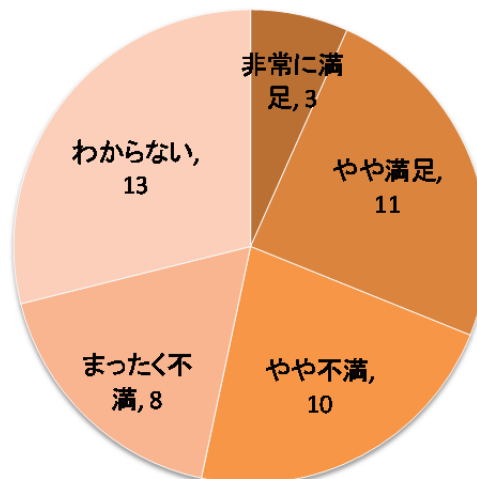
問 86 規格の仕様・機能

利用していない方は、わからない、と回答されています。SCORM 1.2 に比べ、「非常に満足」が増えています。



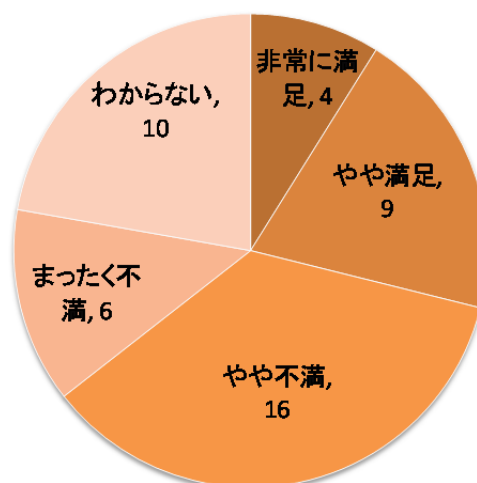
問 87 LMS やオーサリングツールの機能・品揃

「規格の仕様・機能」に比べ、満足度が落ちています。



問 88 必要な情報の入手

「規格の仕様・機能」に比べ、満足度が落ちています。



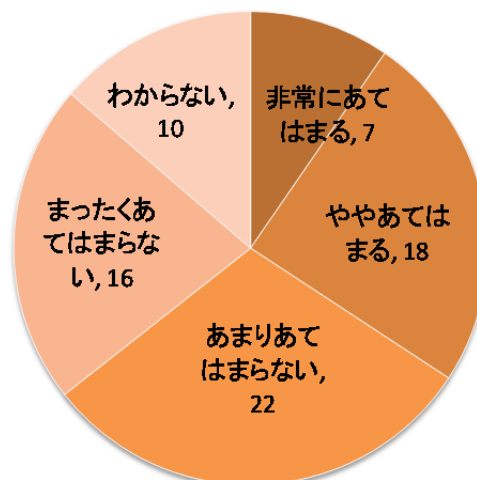
問 89 上記で「不満、やや不満」の場合、内容を具体的に書いてください。

- SCORM2004 は実績がない。
- 仕様書が分かりにくい。日本語の情報なども少ない
- SCORM2004 に対応している LMS がほとんどなく、対応しても動作が不安定である。また情報も少なく、SCORM1.2 と比較すると複雑な記述が必要となるため、導入を躊躇する場合も多いのではと思います。
- 2004 対応の国産商用 LMS が少ない
- シーケンシングが判り難い且つ仕様を複雑にしている原因

ここからは、すべての回答者（73 名）の、今後の SCORM 技術者制度に対する要望に関する回答です。

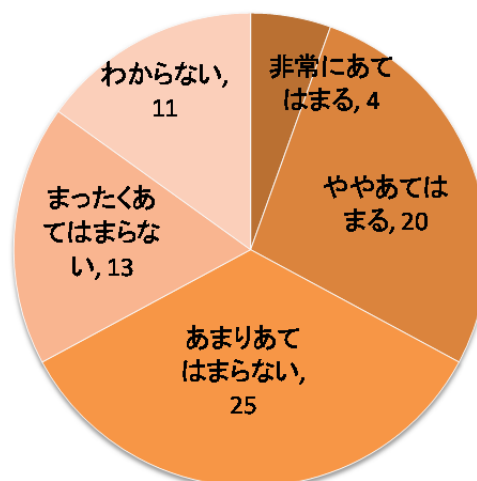
問 91 より簡易な資格を設けてほしい

1/3 程度の方が簡易な資格を希望しています。



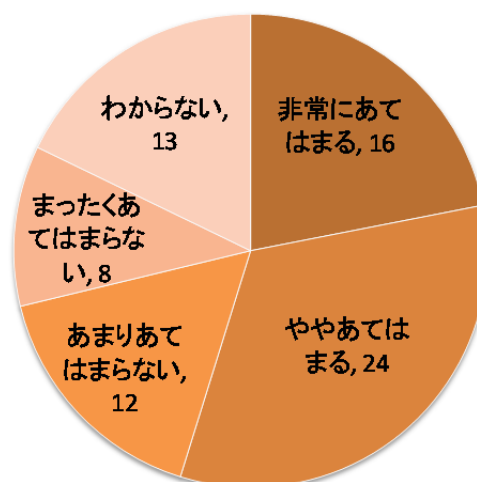
問 92 より高度な資格を設けてほしい

1/3 程度の方が高度な資格を希望しています。



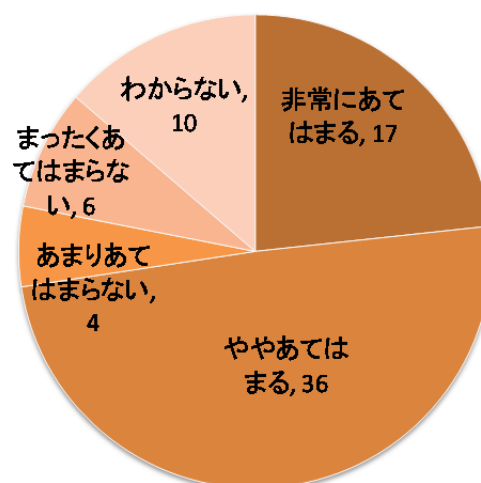
問 93 講習会の内容をもっと充実させてほしい

2/3 程度の方が講習会の充実を希望しています。



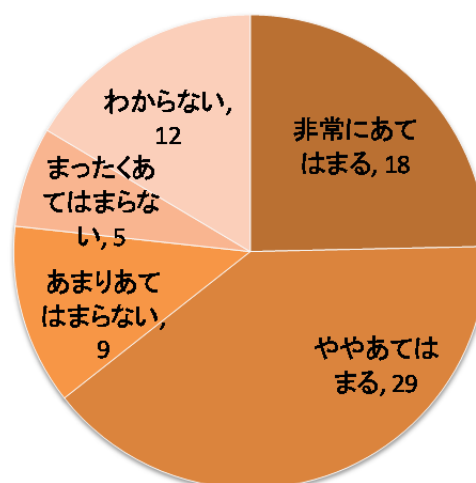
問 94 SCORM 技術者コミュニティで情報提供を充実させてほしい

3/4 程度の方がコミュニティでの情報提供の充実を希望しています。



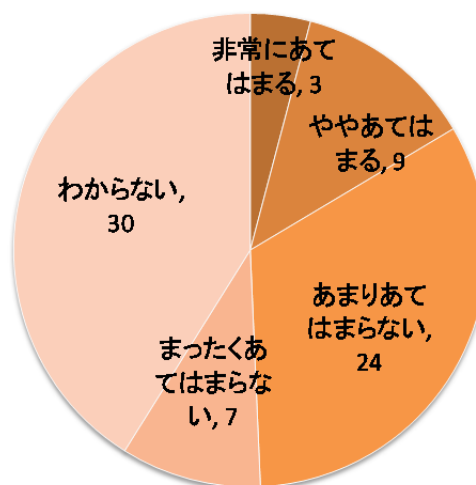
問 95 SCORM 技術者コミュニティ同士の情報交換を促進してほしい

2/3 程度の方がコミュニティでの情報交換の充実を希望しています。



問 96 コンテンツ認証の権限を除いてほしい

1/3 程度の方がコンテンツ認証権限は不要としています。



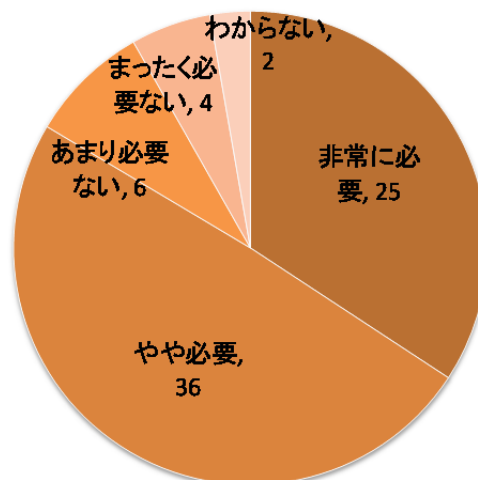
問 97 その他具体的に

- 技術については、開発ツールの融合、オープン化を求める
- コンテンツ認証がどれだけ世の中で役に立っているのか具体的な数字で知りたい。

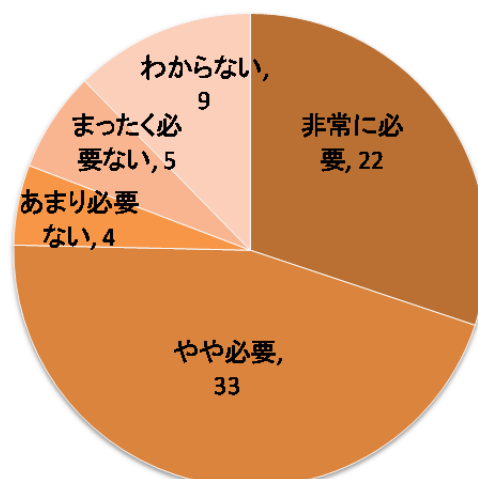
ここからは、回答者全員（73 名）の SCORM に関する必要な情報源についての回答です。

問 98 e ラーニングカンファレンスのような
解説セミナー

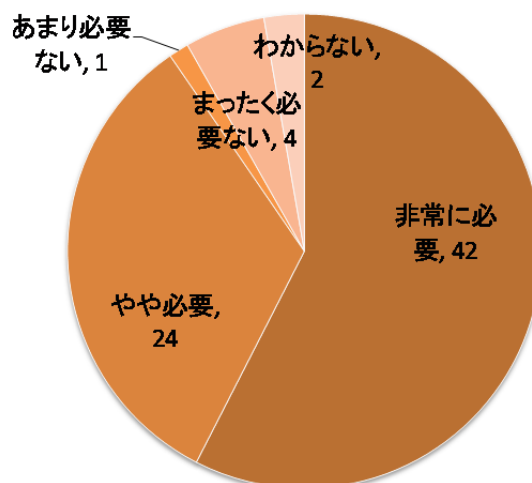
以下のいずれについても、3/4 以上の方が必
要性を感じています



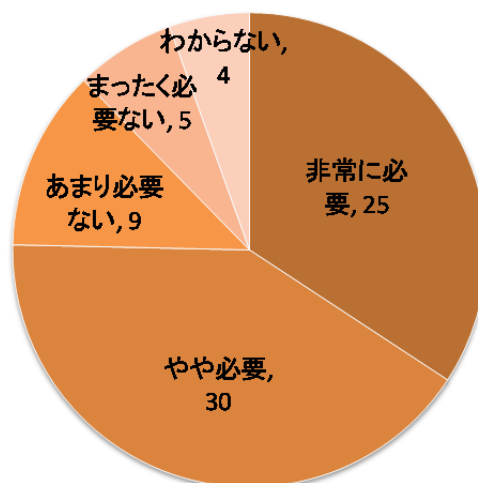
問 99 アセッサコミュニティでの情報交換



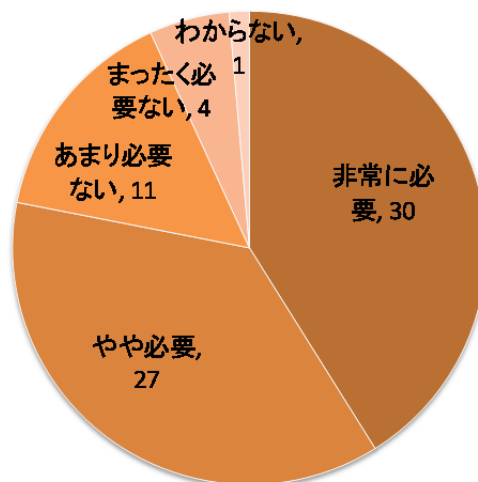
問 100 Web サイトでの解説資料や FAQ



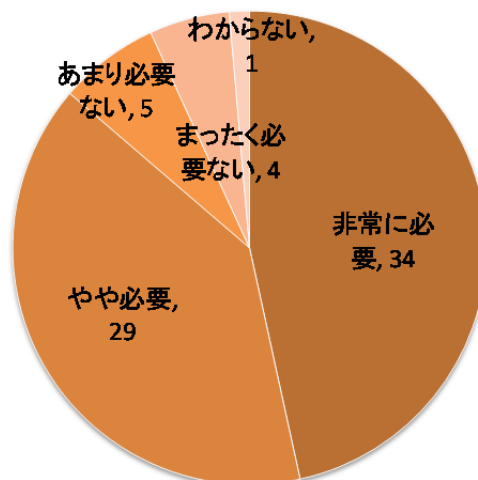
問 101 過去のカンファレンス・講習会の動画
配信



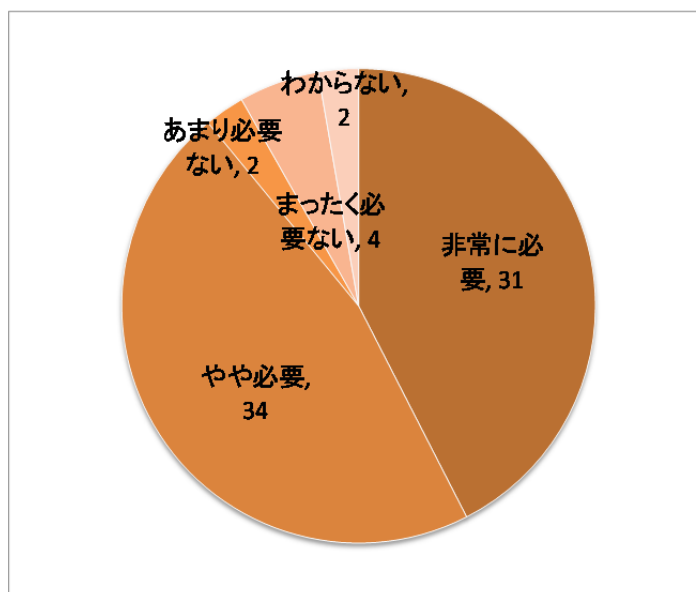
問 102 コンテンツ作成などの実技講習会



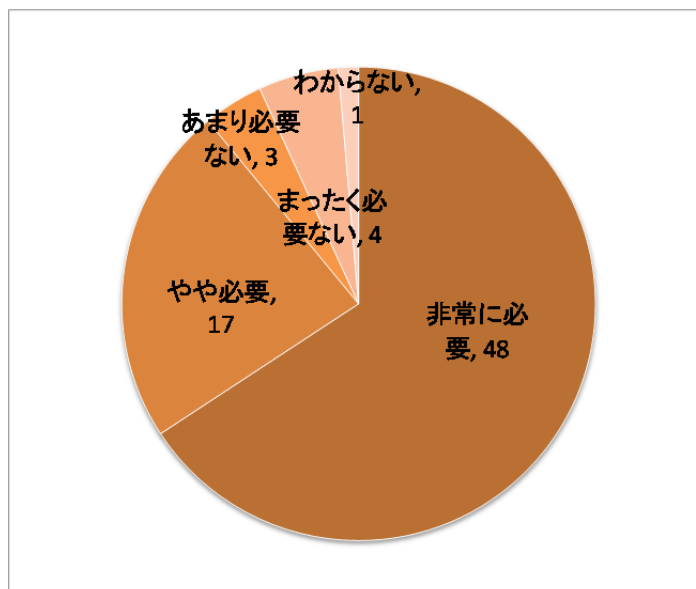
問 103 コンテンツ作成や活用方法の事例紹介



問 104 技術解説書籍



問 105 規格書の日本語訳

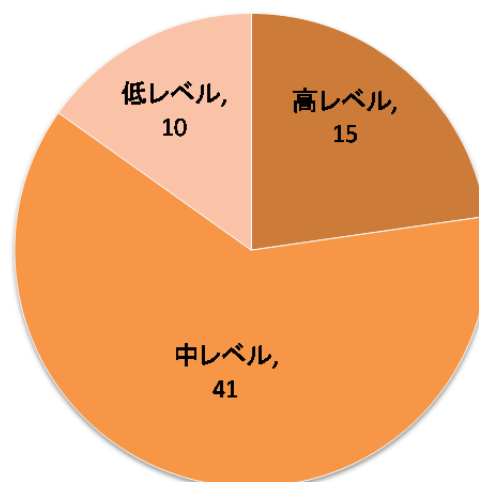


問 106 その他具体的に

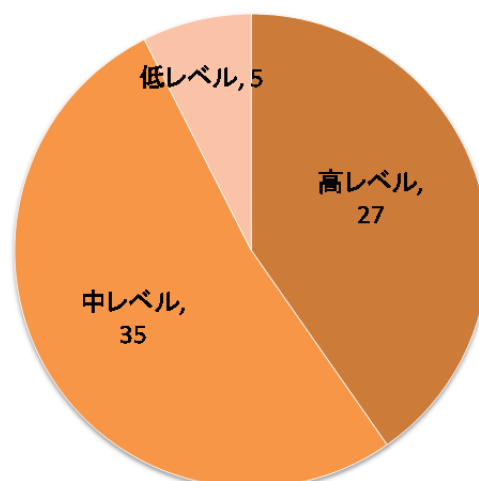
- 出版社を経由する書籍化（紙）ではなく電子書籍で十分
- Web コンテンツの一部として開発ツールとの融合

ここからは、前問で、非常に必要、やや必要、を選択した場合の難易度についての回答です。

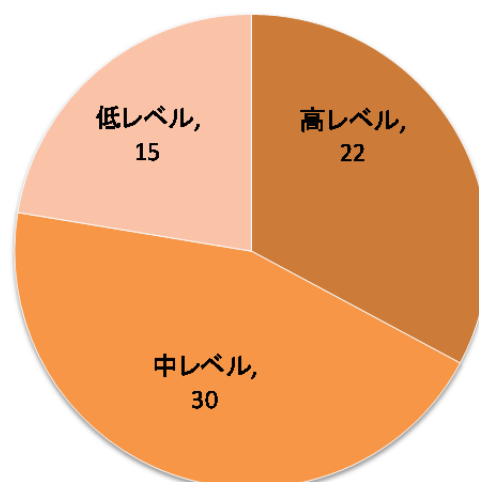
問 107 e ラーニングカンファレンスのような
解説セミナー



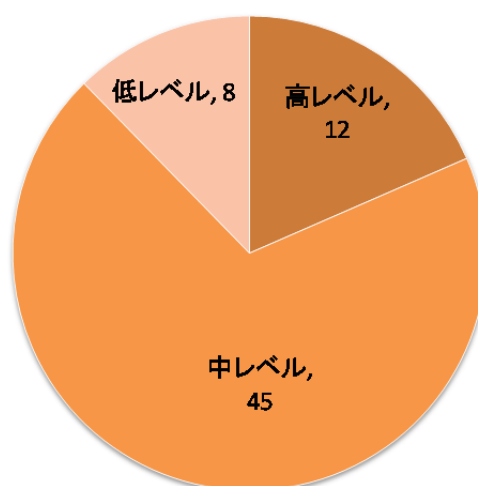
問 108 アセッサコミュニティでの情報交換



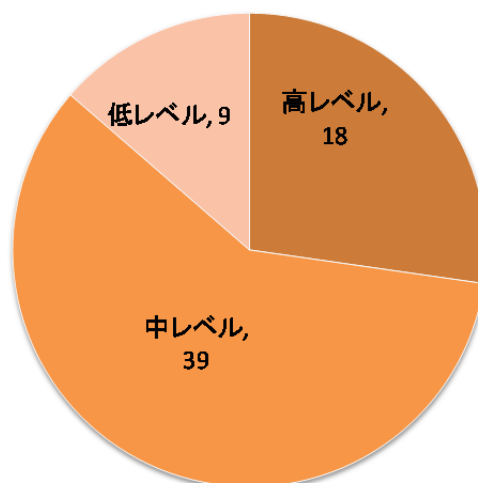
問 109 Web サイトでの解説資料や FAQ



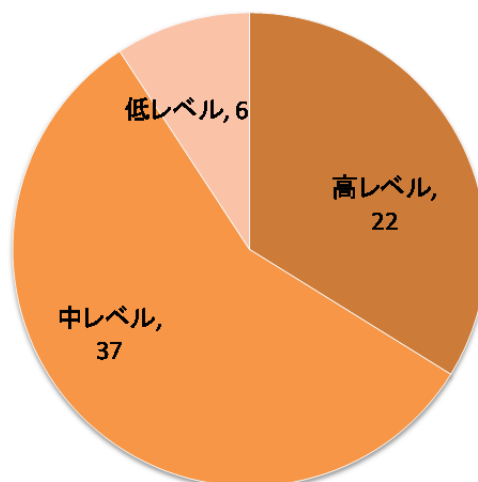
問 110 過去のカンファレンス・講習会の動画
配信



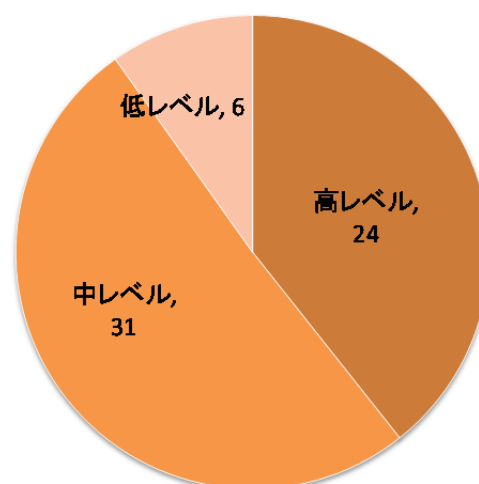
問 111 コンテンツ製作などの実技講習会



問 112 コンテンツ作成や活用方法の事例紹介

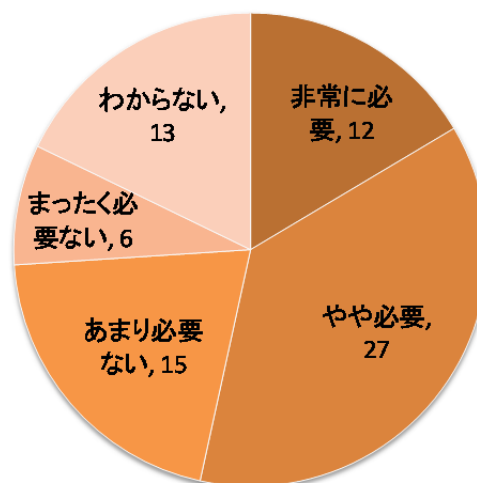


問 113 コンテンツ作成や活用方法の事例紹介

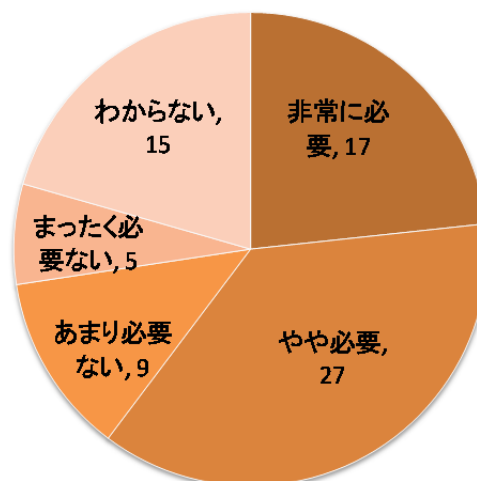


ここからは SCORM 以外の規格の普及・啓蒙の必要性についての回答です。

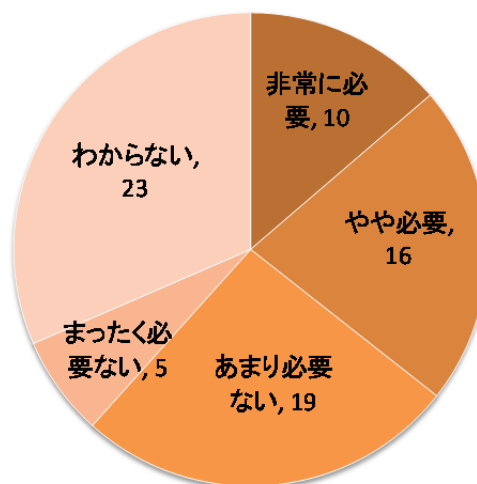
問 114 LOM (Learning Object Metadata, メタデータ規格)



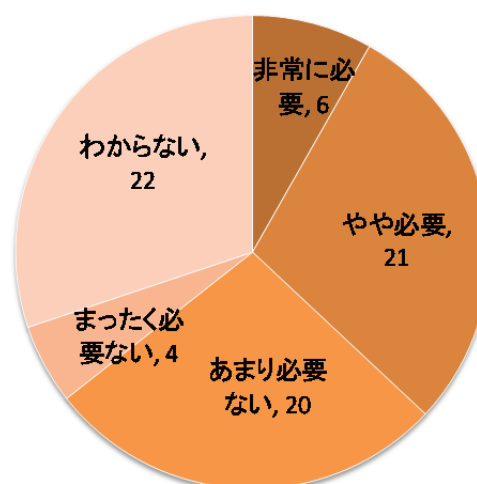
問 115 QTI (Question and Test Interoperability, 試験問題規格)



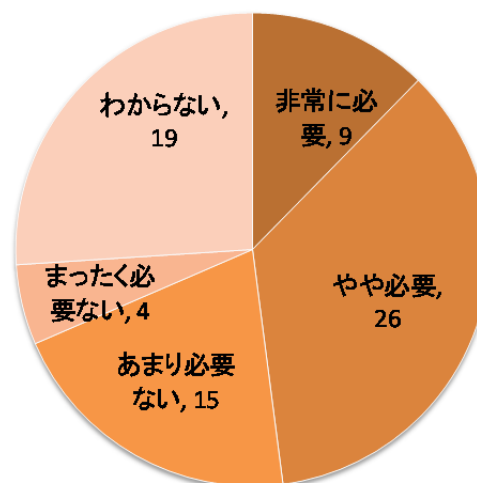
問 116 CC (Common Cartridge, 流通コンテンツ規格)



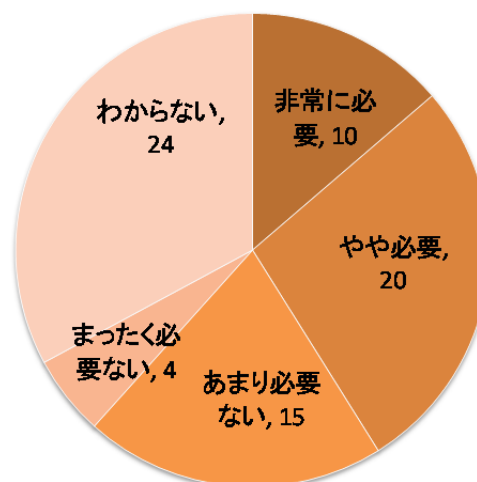
問 117 LIP (Learner Information Package, 学
習者情報規格)



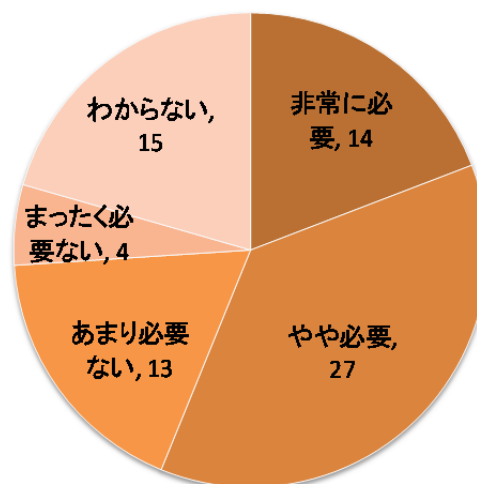
問 118 Competency(コンピテンシー規格)



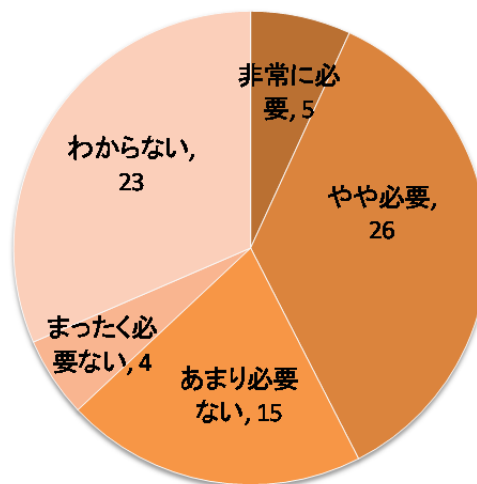
問 119 TI(Tools Interoperability, e ラーニング
システム連携規格)



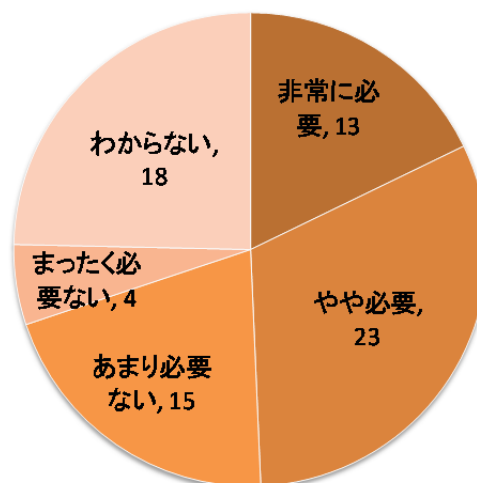
問 120 LD (Learning Design, 学習設計規格)



問 121 ePortfolio 規格



問 122 Quality Assurance(教育の質保証規格)

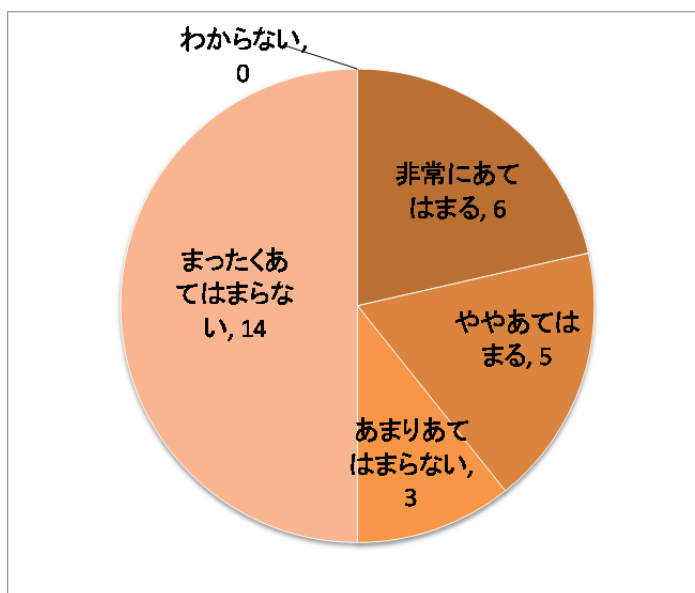


問 123 その他具体的に

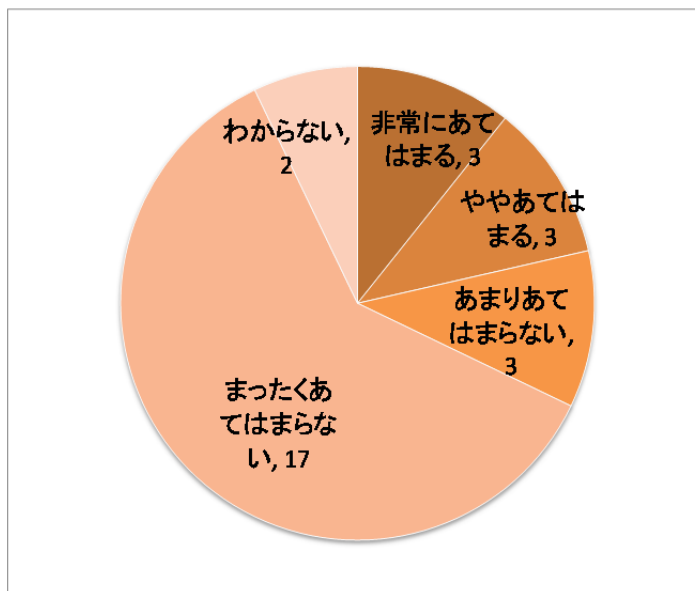
- 上記をほとんど気にしたことがない
- Web コンテンツとしての開発の一部として技術者が触れる状況にしてほしい。
- いずれも必要性は感じるが現場からとても距離を感じる。

ここからは SCORM 規格を使っていない方（28 名）の、使わない理由に関する回答です。

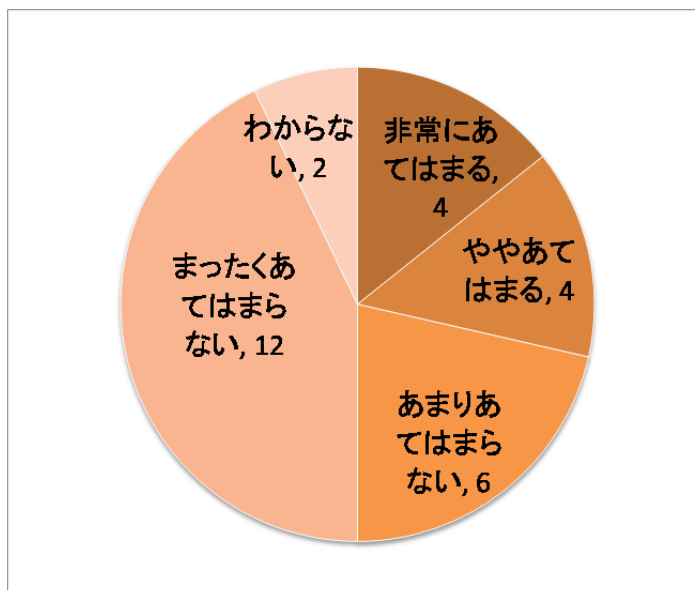
問 124 e ラーニング自体を使っていない



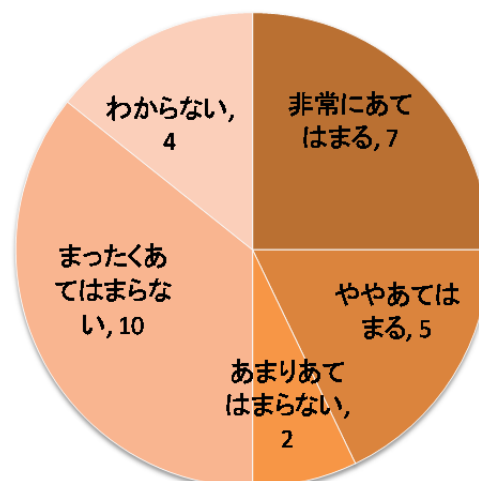
問 125 SCORM を知らない



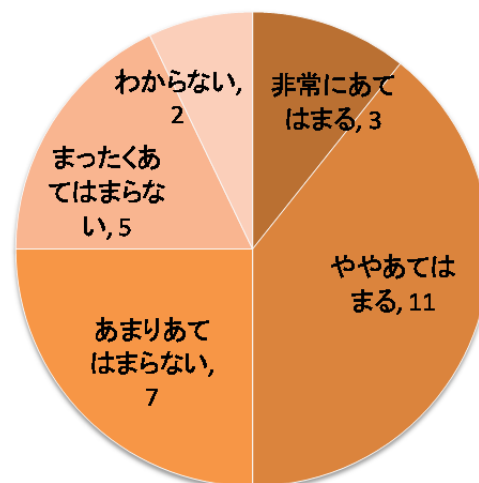
問 126 e ラーニングコンテンツと関係していない



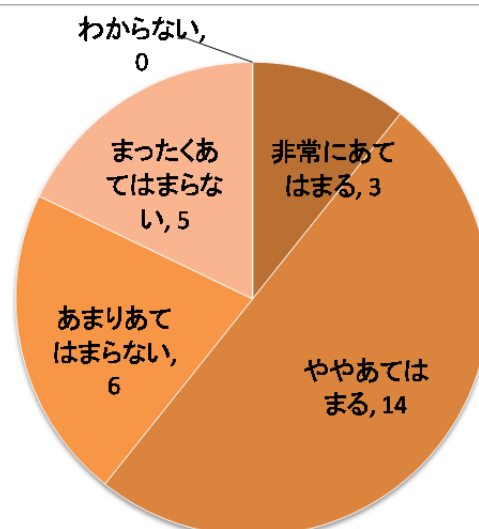
問 127 他の仕様・規格を使っている



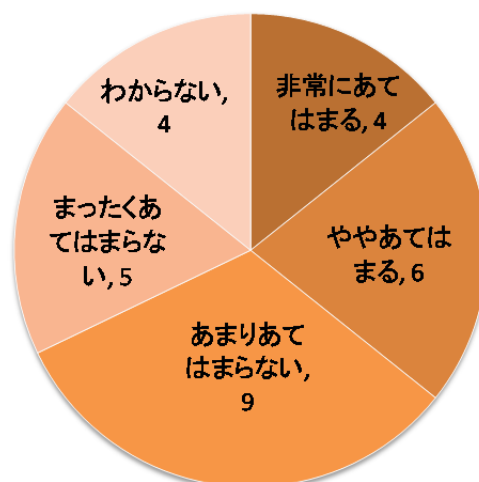
問 128 情報が不足している



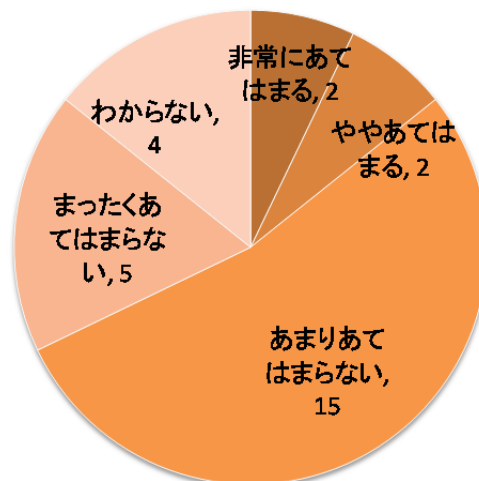
問 129 対応できる技術者がいない



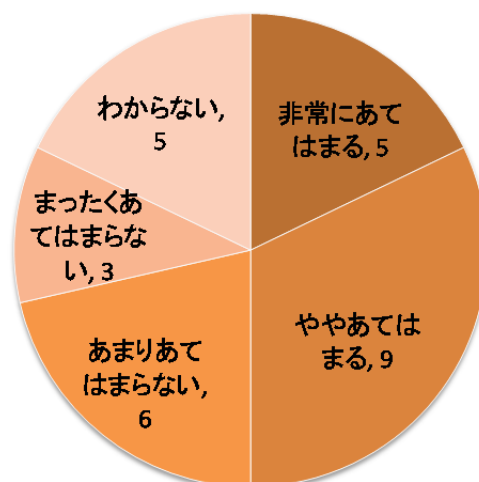
問 130 機能が不足している



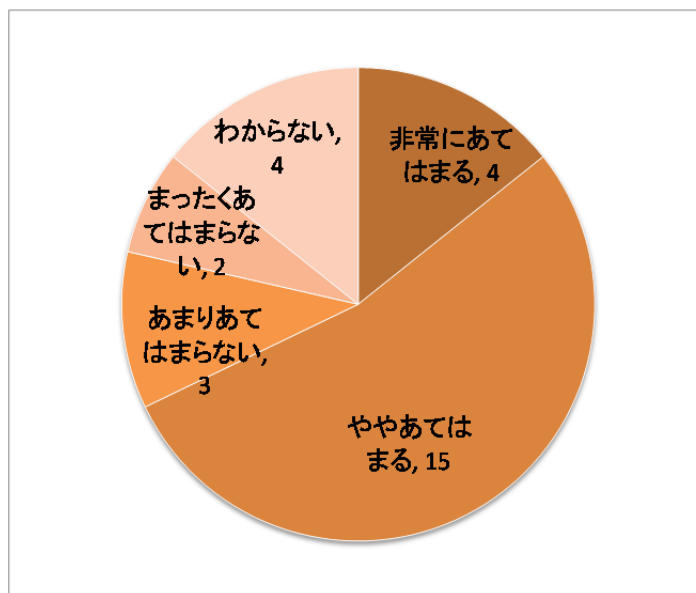
問 131 機能が過多である



問 132 複雑すぎる



問 133 ツールが不足している

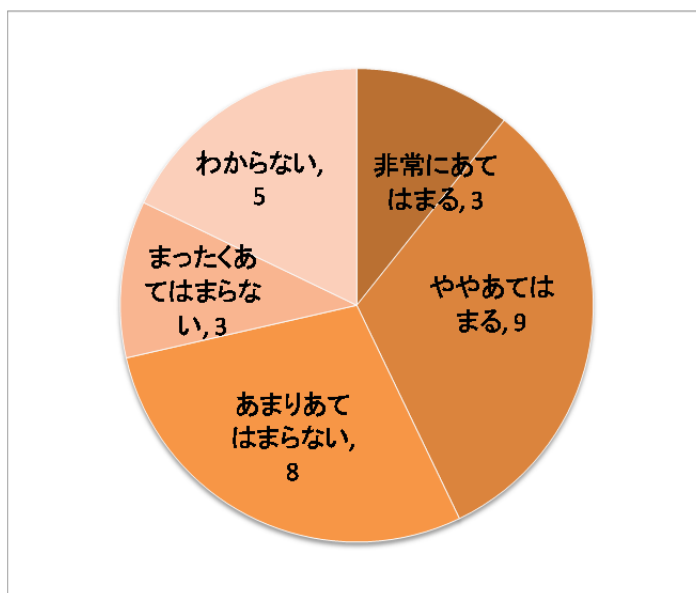


問 134 その他具体的に

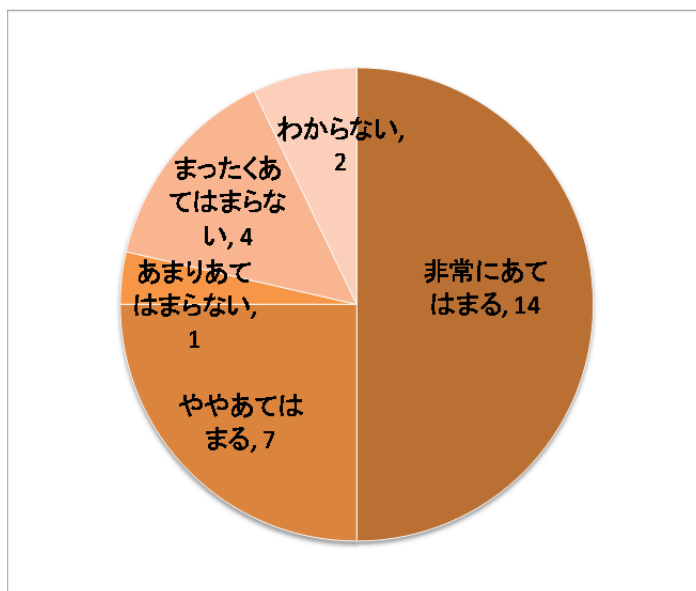
- SCORM のメリットを享受できる環境ではないため、積極的に採用する理由がない
- SCORM 規格に準拠する必要性が無い
- 導入している LMS 他が SCORM 対応不十分
- コンテンツ制作が廉価、簡単
- 使う必要がない。
- LMS 自体の持つ機能がどうしてもシステムとの親和性が良いため、まず LMS での機能でできないかを考えてしまう。

ここからは SCORM 規格を使っていない方（28 名）の認識している、SCORM のメリットに関する回答です。

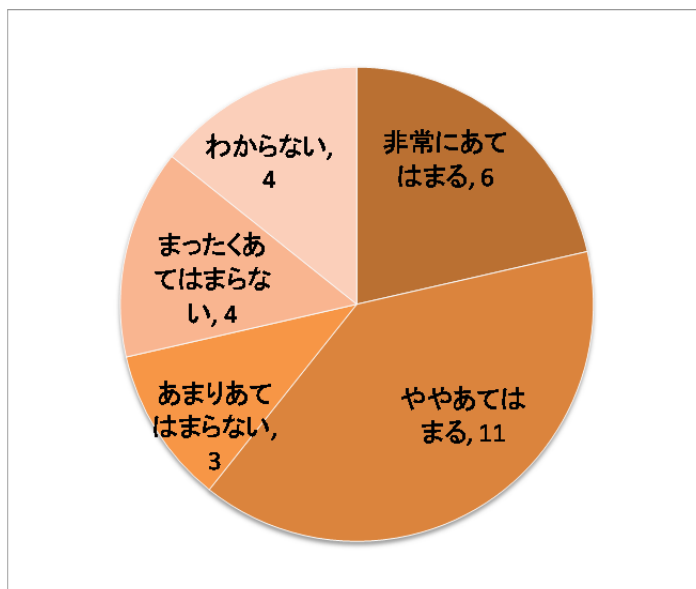
問 135 コンテンツ開発の効率化が可能



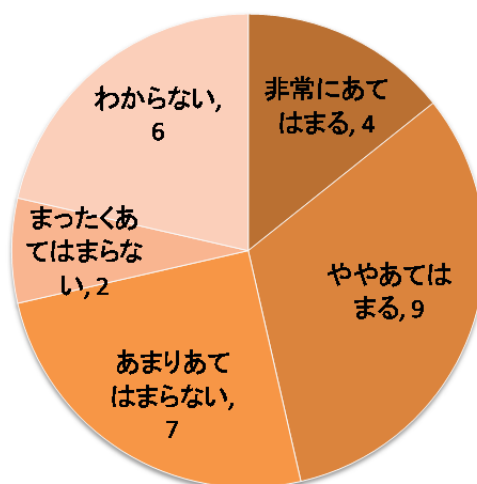
問 136 コンテンツの再利用が可能



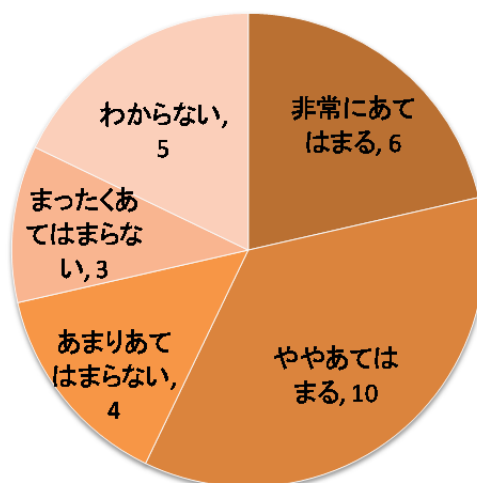
問 137 開発工程やツールの標準化が可能



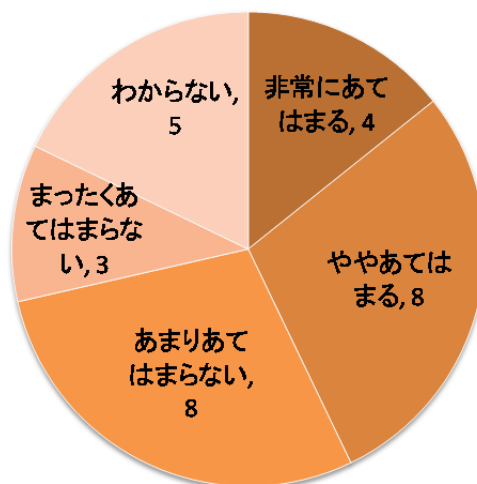
問 138 顧客要望への対応



問 139 自社で扱える LMS やコンテンツ種別の増加が可能

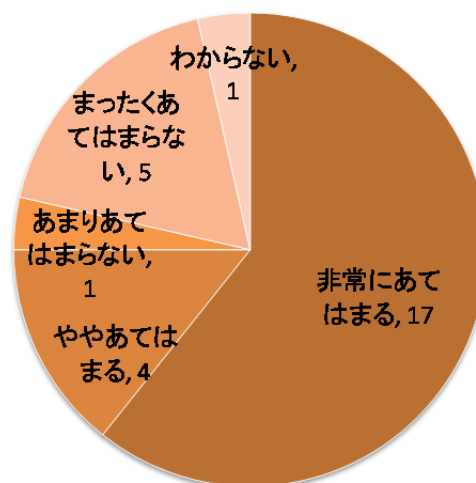


問 140 コンテンツ開発外注先の選択肢増加が可能

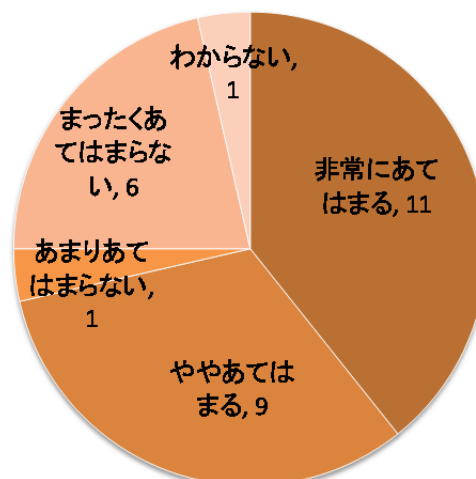


ここからは SCORM 規格を使っていない方（28 名）の認識している、SCORM 技術者の認知度・ニーズ・普及状況についての回答です。

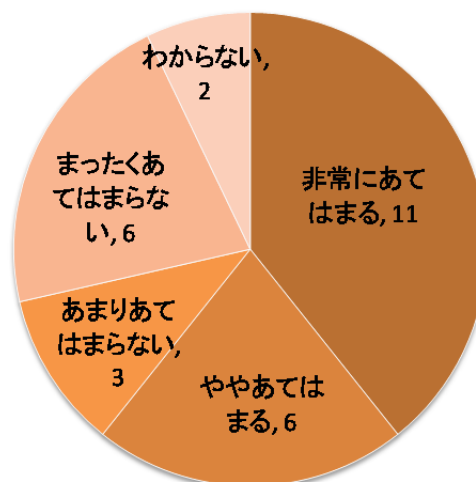
問 142 SCORM 技術者制度の存在を知っている



問 142 SCORM 技術者制度の内容を知っている



問 144 SCORM 技術者制度の意義を知っている



以下は回答者全員からの、eLCの技術標準化活動やSCORM技術者コミュニティの活動についてのご意見、コメントです。

- 運営されている皆様のご尽力には大変感謝しております。少なくとも、サービス提供ベンダー間における情報共有等に大きく役立っていると思います。今後は、もう少し広い視野からSCORMを使うことでのお客様へのメリット／デメリットや、成功／失敗事例など、よりお客様に近いところでSCORMがどう関わっているかを知りたいと思っています。
- 以前に一度、NTTデータ様が開発・提供しているOpenSourceLMSを使わせて頂きました。SCORM規格があることで、コンテンツが作成しやすく、良かったと思います。
- 活動メンバの拡充と広報の活性化、各界団体などへの働きかけなど、進めていかななくてはと思います。
- あまり積極的に参加出来ていないので、非常に申し訳なく思います。
- 講習会等はやはり東京会場メイン（というよりオンリー）でしょうか？地方在住のために関西、九州でも年1回くらいは... と思います。
- 技術を高める活動をする一方、周辺との関係を考える機会や関連コミュニティとの接触を増やすことで、直面する課題に対する本質の問題を考えるマインドが醸成されることを切に願います。
- 他業種での利用状況が知りたい。
- 身内の懇親会のように、存在意義が感じられない。もう少し他業界（顧客層や企業内個人）への積極的な訴求活動を、協会が中心となつてすべきではないか。技術的な開発についても、貴会が世界の先んじて行ってもらえないと、日本での活動は国内のみとなり、統一基準の意味が伝わらない。また、そのような活動をしているように思えない。
- 海外サイト（参考）<http://moodle.org/sites/index.php?country=US>（ムードル導入サイト一覧）SCORM2004 モジュール制作の前に解析に時間がかかり、解決可能か不明。
- 1.SCORM 準拠のシステム(LMS)は実は準拠していないシステムが多い 2.分岐していると使えないなどの問題が多い 3.日系 LMS のすべては SCORM パッケージにしたコンテンツをポーティングできない 4.システムベンダが SCORM の意義を理解していない 5.システムベンダが eLC 役員となっているため eLC 自体の存在意義に疑問上記から SCORM は不要

全回答者約 1 割強の方が、自由記述コメントを回答されました。これらを今後の活動に反映していく必要があります。